令和８年度　地域農業水利施設ストックマネジメント事業　大畑蔵谷地区用排水路改修工事（１）

金抜設計書

工 事 番 号　2026101800

工　事　名　令和８年度　地域農業水利施設ストックマネジメント事業　大畑蔵谷地区用排水路改修工事（１）

施 工 場 所　加東市大畑地内

兵庫県　加東市

内訳			
	実施	今回変更	増減額
設計額 (内消費税額)	円 (円)	円 (円)	円 (円)
請負額 (内消費税額)	円 (円)	円 (円)	円 (円)

施工期限		
	実施	令和 9年 3月26日まで
	今回変更	

概要	
取付護岸工	左岸 33.10m
	右岸 18.95m
堰体工	14.45m
底張りコンクリート	57.1m2

総 括 情 報 表

単価適用年月日	00-08.10.01(0)	
	今　　回	前　　回
工種区分（土地改良土木） 施工地域区分 現場環境改善費 前払区分 契約保証費用 週休２日補正	07　排水路工事 91　中山間地域 01　計上する 02　補正なし　1.00 01　計上する 05　対象外	

工事費内訳書

費目・工種・種別・細目	数量	単位	単価	金額	備考
本工事費					
直接工事費（仮設工を除く）					
土工					
掘削工					
掘削		m3			
掘削 土砂 片切掘削	190	m3			施工　第0 -0001号内訳表
床掘り		m3			
床掘り 土砂 上記以外(小規模)	200	m3			施工　第0 -0002号内訳表
盛土工					

工事費内訳書

費目・工種・種別・細目	数量	単位	単価	金額	備考
流用土盛土		m3			
路体(築堤)盛土 2.5m未満	33	m3			施工　第0 -0003号内訳表
人力土工(盛土･埋戻) 盛土:人力まき出し 粘性土･礫質土 ﾀﾝﾊﾟ(Ⅰ)	6	m3			施工　第0 -0004号内訳表
埋戻し 最大埋戻幅1m以上4m未満	78	m3			施工　第0 -0005号内訳表
埋戻し 最大埋戻幅1m未満	22	m3			施工　第0 -0006号内訳表
埋戻し 上記以外(小規模) 土砂	66	m3			施工　第0 -0007号内訳表
整形仕上げ工					
法面整形		m2			
法面整形 盛土部(法面締固無し) 土質->ﾚｷ質土､砂及び砂質土､粘性土	61	m2			施工　第0 -0008号内訳表

工事費内訳書

費目・工種・種別・細目	数量	単位	単価	金額	備考
畦畔整形工	2	m2			施工　第0 -0009号内訳表
作業残土処理工					
土砂等運搬		m3			
土砂等運搬；(標準) 土質->土砂(岩塊･玉石混り土含む) ；DID区間->無し	170	m3			施工　第0 -0011号内訳表
処分費 土 砂 ；投棄量１７０m3	1	式			施工　第0 -0012号内訳表
構造物撤去工					
構造物取壊し工					
ｺﾝｸﾘｰﾄ構造物取壊し		m3			
構造物とりこわし工；[機械施工] 無筋構造物	173	m3			施工　第0 -0013号内訳表

工事費内訳書

費目・工種・種別・細目	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
殻運搬					
殻運搬 ｺﾝｸﾘｰﾄ(無筋)構造物とりこわし ；ＤＩＤ区間無し　Ｌ＝5.7km以下	173	m3			施工　第0 -0014号内訳表
処分費 ｺﾝｸﾘｰﾄ殻(無筋) ；投棄量１７３m3	1	式			施工　第0 -0015号内訳表
井堰本体工					
井堰本体工					
コンクリート		m3			
コンクリート 無筋･鉄筋構造物 ；ｺﾝｸﾘｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟ車打設	216	m3			施工　第0 -0016号内訳表
型枠		m2			
型枠 一般型枠 鉄筋･無筋構造物	92	m2			施工　第0 -0017号内訳表

工事費内訳書

費目・工種・種別・細目	数量	単位	単価	金額	備考
擁壁工					
現場打擁壁工					
コンクリート		m3			
コンクリート 無筋･鉄筋構造物 ;ｺﾝｸﾘｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟ車打設	72	m3			施工　第0 -0018号内訳表
型枠		m2			
型枠 一般型枠 鉄筋･無筋構造物	213	m2			施工　第0 -0017号内訳表
足場		掛m2			
足場工設置・撤去	83	掛m2			施工　第0 -0019号内訳表
目地板		m2			

工事費内訳書

費目・工種・種別・細目	数量	単位	単価	金額	備考
目地板 瀝青質目地板 t=20mm	7	m2			施工　第0 -0020号内訳表
水抜きパイプ		箇所			
硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管人力布設 VP　50mm 直管(両差し口)4.0m管	24	m			施工　第0 -0021号内訳表
吸出し防止材		m2			
吸出防止材設置	4	m2			施工　第0 -0022号内訳表
張コンクリート工					
張コンクリート工		m			
コンクリート 無筋･鉄筋構造物 ;ｺﾝｸﾘｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟ車打設	19	m3			施工　第0 -0023号内訳表
水路復旧工					

工事費内訳書

費目・工種・種別・細目	数量	単位	単価	金額	備考
ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ水路工					
鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄU形		式			
フリューム復旧 B300	1	式			施工　第0 -0024号内訳表
直接工事費（仮設工）					
仮設工					
仮設道路工					
安定ｼｰﾄ		m2			
土工用ﾏｯﾄ(ｼｰﾄ類)敷設･撤去 敷設～撤去	397	m2			施工　第0 -0030号内訳表
工事用道路工					

工事費内訳書

費目・工種・種別・細目	数量	単位	単価	金額	備考
路体(築堤)盛土 4.0m以上	87	m3			施工　第0 -0031号内訳表
購入土 (無規格)	97	m3			
掘削 土砂 ｵｰﾌﾟﾝｶｯﾄ 5,000m3未満	87	m3			施工　第0 -0032号内訳表
土砂等運搬；(標準) 土質->土砂(岩塊･玉石混り土含む) ；DID区間->無し	89	m3			施工　第0 -0033号内訳表
県版　耕地復旧(表土掘削･埋戻)	342	m2			施工　第0 -0034号内訳表
県版　耕地復旧(表土掘削･埋戻)	342	m2			施工　第0 -0035号内訳表
仮水路工					
ｺﾙｹﾞｰﾄﾊﾟｲﾌﾟ水路工 砕石なし	34	m			施工　第0 -0036号内訳表
鋼管吊込み撤去（機械力） 呼び径　400mm　呼び厚さ　Ａ種	34	m			施工　第0 -0037号内訳表

工事費内訳書

費目・工種・種別・細目		数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
	大型土のう製作･設置 購入土	2	袋			施工　第0 -0038号内訳表
	大型土のう撤去	2	袋			施工　第0 -0040号内訳表
	土のう工 仕拵え～設置～撤去	0.6	m3			施工　第0 -0042号内訳表
直接工事費計						
共通仮設費計						
現場環境改善費			式			
共通仮設費率分			式			
純工事費計						
現場管理費			式			

工事費内訳書

費目・工種・種別・細目	数量	単位	単価	金額	備考
工事原価					
一般管理費等		式			
工事価格計					
消費税相当額		式			
総計					

掘削

積算単価算出表

施工　第0 -0001号内訳表　　頁0-0012/0056

［規格１］ 土砂 片切掘削　　［規格２］　　［ 摘要 ］　　1　　m3　　当り

標準単価			代表機労材規格	構成比	基準単価		積算規格	単　価	補　正 構成比	備　考
	K1		ﾊﾞｯｸﾎｳ(ｸﾛｰﾗ型) ﾊﾞｹｯﾄ容量0.8m3 標準型･超低騒音型 排出ｶﾞｽ対策型(2014年)				ﾊﾞｯｸﾎｳ(ｸﾛｰﾗ型) [標準型･超低騒音型･排ｶﾞｽ対策型(2014年] ﾊﾞｹｯﾄ容量0.8m3			
	K									
	R1		普通作業員				普通作業員			
	R2		運転手(特殊)				運転手(特殊)			
	R									
	Z1		軽油 ﾊﾟﾄﾛｰﾙ給油				軽油 パトロール給油			
	Z									
							計			
	積算単価 ＝									
	A B	土質 施工方法	=1 =2		土砂 片切掘削					

積算単価算出表

床掘り　　施工　第0 -0002号内訳表　　頁0-0013/0056

［規格１］ 土砂 上記以外(小規模)　　［規格２］　　［ 摘要 ］　　1　　m3　　当り

標準単価			代表機労材規格	構成比	基準単価		積算規格	単　価	補　正 構成比	備　考
	K1		ﾊﾞｯｸﾎｳ(ｸﾛｰﾗ型) ﾊﾞｹｯﾄ容量0.28m3 後方超小旋回型 排出ｶﾞｽ対策型(第3次基準値)				ﾊﾞｯｸﾎｳ(ｸﾛｰﾗ型) [後方超小旋回型･排出ｶﾞｽ対策型(第3次)] ﾊﾞｹｯﾄ容量0.28m3			
	K									
	R1		運転手(特殊)				運転手(特殊)			
	R2		普通作業員				普通作業員			
	R									
	Z1		軽油 ﾊﾟﾄﾛｰﾙ給油				軽油 パトロール給油			
	Z									
							計			
	積算単価 ＝									
	A	土質	=1		土砂					
	B	施工方法	=5		上記以外(小規模)					

路体(築堤)盛土

積算単価算出表

施工　第0 -0003号内訳表　　頁0-0014/0056

［規格１］2.5m未満　　［規格２］　　［ 摘要 ］　　1　　m3　　当り

標準単価	代表機労材規格			構成比	基準単価	積算規格		単　価	補　正 構成比	備　考
	K1		振動ﾛｰﾗ(舗装用) 運転質量0.8～1.1t ﾊﾝﾄﾞｶﾞｲﾄﾞ式				振動ﾛｰﾗ ﾊﾝﾄﾞｶﾞｲﾄﾞ式 運転質量0.8～1.1t			
	K									
	R1		普通作業員				普通作業員			
	R2		特殊作業員				特殊作業員			
	R									
	Z1		軽油 ﾊﾟﾄﾛｰﾙ給油				軽油 パトロール給油			
	Z									
							計			
	積算単価　＝									
	A	施工幅員	=1		2.5m未満					

施工単価表

施工　第0 -0004号内訳表　　頁0-0015/0056

人力土工(盛土･埋戻)

［規格１］盛土:人力まき出し　　［規格２］粘性土･礫質土 ﾀﾝﾊﾟ（Ⅰ）　　［ 摘要 ］　　10　m3　当り

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
特殊作業員		人			1
普通作業員		人			
諸雑費	10.00	%			#01
合　計	10	m3			
単　位　当　り	1	m3			
A　土質区分 B　作業･施工区分 C　締固め区分		=2 =1 =3	粘性土･礫質土 盛土:人力まき出し ﾀﾝﾊﾟ（Ⅰ）		

積算単価算出表

施工　第0 -0005号内訳表　　頁0-0016/0056

埋戻し

［規格１］最大埋戻幅1m以上4m未満　　［規格２］　　［ 摘要 ］　　1　　m3　　当り

標準単価	代表機労材規格			構成比	基準単価	積算規格		単　価	補　正 構成比	備　考
	K1		ﾊﾞｯｸﾎｳ ﾊﾞｹｯﾄ容量0.8m3 ｸﾛｰﾗ型 排出ｶﾞｽ対策型含				ﾊﾞｯｸﾎｳ(排出ｶﾞｽ対策型･超低騒音型含) 油圧式ｸﾛｰﾗ型 ﾊﾞｹｯﾄ容量0.8m3			
	K2		振動ﾛｰﾗ(舗装用) 質量0.5～0.6t ﾊﾝﾄﾞｶﾞｲﾄﾞ式				振動ﾛｰﾗ(舗装用) [ﾊﾝﾄﾞｶﾞｲﾄﾞ式] 0.5～0.6t			
	K3		ﾀﾝﾊﾟ及びﾗﾝﾏ 通称60～80kg				ﾀﾝﾊﾟ(ﾗﾝﾏ) 通称60～80kg			
	K									
	R1		普通作業員				普通作業員			
	R2		特殊作業員				特殊作業員			
	R3		運転手(特殊)				運転手(特殊)			
	R									
	Z1		軽油 ﾊﾟﾄﾛｰﾙ給油				軽油 パトロール給油			
	Z2		ｶﾞｿﾘﾝ ﾚｷﾞｭﾗｰ ｽﾀﾝﾄﾞ				ﾚｷﾞｭﾗｰｶﾞｿﾘﾝ スタンド			
	Z									
							計			

積算単価算出表

埋戻し　　施工　第0 -0005号内訳表　　頁0-0017/0056

［規格１］最大埋戻幅1m以上4m未満　　［規格２］　　［ 摘要 ］　　1　　m3　　当り

標準単価	代表機労材規格		構成比	基準単価	積算規格		単　価	補　正 構成比	備　考
	積算単価　＝								
	A　施工方法	=3		最大埋戻幅1m以上4m未満					

積算単価算出表

埋戻し　　施工　第0 -0006号内訳表　　

［規格１］最大埋戻幅1m未満　　［規格２］　　［ 摘要 ］　　1　　m3　　当り

標準単価	代表機労材規格			構成比	基準単価	積算規格		単　価	補　正 構成比	備　考
	K1		ﾊﾞｯｸﾎｳ(ｸﾛｰﾗ型)ﾊﾞｹｯﾄ容量0.45m3 後方超小旋回型･超低騒音 排出ｶﾞｽ対策型(2014年)				ﾊﾞｯｸﾎｳ(ｸﾛｰﾗ型) [後方超小旋回型･超低騒音･排ｶﾞｽ(2014年] ﾊﾞｹｯﾄ容量0.45m3			
	K2		ﾀﾝﾊﾟ 及びﾗﾝﾏ 通称60～80kg				ﾀﾝﾊﾟ (ﾗﾝﾏ) 通称60～80kg			
	K									
	R1		普通作業員				普通作業員			
	R2		特殊作業員				特殊作業員			
	R3		運転手(特殊)				運転手(特殊)			
	R									
	Z1		軽油 ﾊﾟﾄﾛｰﾙ給油				軽油 パトロール給油			
	Z2		ｶﾞｿﾘﾝ ﾚｷﾞｭﾗｰ ｽﾀﾝﾄﾞ				ﾚｷﾞｭﾗｰｶﾞｿﾘﾝ スタンド			
	Z									
							計			
	積算単価 ＝									

積算単価算出表

埋戻し　　施工　第0 -0006号内訳表　　頁0-0019/0056

［規格１］最大埋戻幅1m未満　　［規格２］　　［ 摘要 ］　　1　　m3　　当り

標準単価	代表機労材規格			構成比	基準単価	積算規格		単　価	補　正 構成比	備　考
	A	施工方法	=4		最大埋戻幅1m未満					

積算単価算出表

埋戻し　　施工　第0 -0007号内訳表　　

［規格１］ 上記以外(小規模) 土砂　　［規格２］　　［ 摘要 ］　　1　　m3　　当り

標準単価		代表機労材規格	構成比	基準単価		積算規格	単　価	補　正 構成比	備　考
	K1	ﾊﾞｯｸﾎｳ(ｸﾛｰﾗ型) ﾊﾞｹｯﾄ容量0.28m3 後方超小旋回型 排出ｶﾞｽ対策型(第3次基準値)				ﾊﾞｯｸﾎｳ(ｸﾛｰﾗ型) [後方超小旋回型･排出ｶﾞｽ対策型(第3次)] ﾊﾞｹｯﾄ容量0.28m3			
	K2	ﾀﾝﾊﾟ及びﾗﾝﾏ 通称60～80kg				ﾀﾝﾊﾟ及びﾗﾝﾏ [ﾗﾝﾏ] 通称60～80kg級			
	K								
	R1	普通作業員				普通作業員			
	R2	特殊作業員				特殊作業員			
	R3	運転手(特殊)				運転手(特殊)			
	R								
	Z1	軽油 ﾊﾟﾄﾛｰﾙ給油				軽油 パトロール給油			
	Z2	ｶﾞｿﾘﾝ ﾚｷﾞｭﾗｰ ｽﾀﾝﾄﾞ				ﾚｷﾞｭﾗｰｶﾞｿﾘﾝ スタンド			
	Z								
						計			
	積算単価 ＝								

積算単価算出表

埋戻し　　施工　第0 -0007号内訳表　　

［規格１］ 上記以外(小規模) 土砂　　［規格２］　　［ 摘要 ］　　1　　m3　　当り

標準単価	代表機労材規格			構成比	基準単価	積算規格		単　価	補　正 構成比	備　考
	A	施工方法	=5		上記以外(小規模)					
	B	土質	=1		土砂					

法面整形

積算単価算出表

施工　第0 -0008号内訳表　　頁0-0022/0056

［規格１］盛土部(法面締固無し)　　［規格２］土質->ﾚｷ質土、砂及び砂質土、粘性土　　［ 摘要 ］　　1　　m2　　当り

標準単価			代表機労材規格	構成比	基準単価		積算規格	単　価	補　正 構成比	備　考
	K1		ﾊﾞｯｸﾎｳ ﾊﾞｹｯﾄ容量0.8m3 ｸﾛｰﾗ型 排出ｶﾞｽ対策型含				ﾊﾞｯｸﾎｳ(排出ｶﾞｽ対策型・超低騒音型含) 油圧式ｸﾛｰﾗ型 ﾊﾞｹｯﾄ容量0.8m3			
	K									
	R1		普通作業員				普通作業員			
	R2		運転手(特殊)				運転手(特殊)			
	R3		土木一般世話役				土木一般世話役			
	R									
	Z1		軽油 ﾊﾟﾄﾛｰﾙ給油				軽油 パトロール給油			
	Z									
							計			
	積算単価　＝									
	A	整形箇所	=1		盛土部					
	B	法面締固めの有無	=2		無し					
	C	現場制約の有無	=2		無し					
	D	土質	=2		ﾚｷ質土、砂及び砂質土、粘性土					

施工単価表

施工　第0 -0009号内訳表　　頁0-0023/0056

畦畔整形工

［規格１］　［規格２］　［ 摘要 ］　100　m2　当り

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
ﾊﾞｯｸﾎｳ運転（賃料）		日			
土木一般世話役		人			
普通作業員		人			
合　計	100	m2			
単　位　当　り	1	m2			

積算単価算出表

土砂等運搬　　施工　第0 -0011号内訳表　　頁0-0024/0056

［規格１］ 土質->土砂(岩塊･玉石混り土含む)　［規格２］　［ 摘要 ］　1　m3　当り

標準単価		代表機労材規格	構成比	基準単価	積算規格	単　価	補　正 構成比	備　考
	K1	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ[ｵﾝﾛｰﾄﾞ･ﾃﾞｨｰｾﾞﾙ] 通称10t積級 ﾀｲﾔ損耗費及び補修費(良好)含む			ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ 通称10t積級[ｵﾝﾛｰﾄﾞ･ﾃﾞｨｰｾﾞﾙ] ﾀｲﾔ損耗費及び補修費(良好)含む			
	K							
	R1	運転手(一般)			運転手(一般)			
	R							
	Z1	軽油 ﾊﾟﾄﾛｰﾙ給油			軽油 パトロール給油			
	Z							
					計			
	積算単価　＝							
	A 土砂等発生現場	=1		標準				
	B 積込機種･規格	=1		ﾊﾞｯｸﾎｳ ﾊﾞｹｯﾄ容量0.8m3				
	C 土質	=1		土砂(岩塊･玉石混り土含む)				
	D DID区間の有無	=1		無し				
	E 運搬距離1	=22		11.5km以下				

施工単価表

施工　第0 -0012号内訳表　　

処分費

［規格１］土 砂　　［規格２］　　［ 摘要 ］　　1　式　当り

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
投棄料	1.00	式			1 処分費
単　位　当　り	1	式			
A　種 類		=1	土砂		
B　処分量(m3又はt)		=170	処分量(m3又はt)		
C　★★投棄料(円/t)		=	★★投棄料(円/t)		

施工単価表

施工　第0 -0013号内訳表　　

構造物とりこわし工

［規格１］無筋構造物　　［規格２］　　［ 摘要 ］　　1　m3　当り

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
構造物とりこわし工（無筋）［昼間］ 制約無 機械施工		m3			
単　位　当　り	1	m3			
A　構造物区分 B　時間的制約の有無 C　夜間作業の有無		=1 =1 =1	無筋構造物 時間的制約なし 昼間作業		
D　低騒音・低振動対策		=2	不要		

積算単価算出表

殻運搬　　施工　第0 -0014号内訳表　　

［規格１］ｺﾝｸﾘｰﾄ(無筋)構造物とりこわし　　［規格２］　　［ 摘要 ］　　1　　m3　　当り

標準単価	代表機労材規格			構成比	基準単価	積算規格		単　価	補　正 構成比	備　考
	K1		ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ[ｵﾝﾛｰﾄﾞ・ﾃﾞｨｰｾﾞﾙ] 通称10t積級 ﾀｲﾔ損耗費及び補修費(良好)含む				ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ 通称10t積級[ｵﾝﾛｰﾄﾞ・ﾃﾞｨｰｾﾞﾙ] ﾀｲﾔ損耗費及び補修費(良好)含む			
	K									
	R1		運転手(一般)				運転手(一般)			
	R									
	Z1		軽油 ﾊﾟﾄﾛｰﾙ給油				軽油 パトロール給油			
	Z									
							計			
	積算単価　＝									
	A	殻発生作業	=1		ｺﾝｸﾘｰﾄ(無筋)構造物とりこわし					
	B	積込工法区分	=1		機械					
	C	DID区間の有無	=1		無し					
	D	運搬距離	=15		5.7km以下					

施工単価表

施工　第0 -0015号内訳表　　頁0-0028/0056

処分費

［規格１］ｺﾝｸﾘｰﾄ殻(無筋)　［規格２］　［ 摘要 ］　1　式　当り

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
投棄料	1.00	式			1 処分費
単　位　当　り	1	式			
A　種 類 B　処分量(m3又はt) C　★★投棄料(円/t)		=4 =173 =	Ｃｏ殻(無筋) 処分量(m3又はt) ★★投棄料(円/t)		

コンクリート

積算単価算出表

施工　第0 -0016号内訳表　　頁0-0029/0056

［規格１］無筋･鉄筋構造物　　［規格２］　　［ 摘要 ］　　1　m3　当り

標準単価	代表機労材規格		構成比	基準単価	積算規格	単　価	補　正 構成比	備　考
	K1	ｺﾝｸﾘｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟ車 圧送能力90～110m3/h ﾄﾗｯｸ架装･ﾌﾞｰﾑ式			ｺﾝｸﾘｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟ車 [ﾄﾗｯｸ架装･ﾌﾞｰﾑ式] 90～110m3/h			
	K							
	R1	普通作業員			普通作業員			
	R2	土木一般世話役			土木一般世話役			
	R3	特殊作業員			特殊作業員			
	R4	運転手(特殊)			運転手(特殊)			
	R							
	Z1	生ｺﾝｸﾘｰﾄ 高炉24-12-25(20) W/C=55%			生ｺﾝｸﾘｰﾄ 24-8-20BB 水ｾﾒﾝﾄ比55%以下			
	Z2	軽油 ﾊﾟﾄﾛｰﾙ給油			軽油 パトロール給油			
	Z							
					計			
	積算単価　＝							

積算単価算出表

コンクリート　　施工　第0 -0016号内訳表　　

［規格１］無筋･鉄筋構造物　　［規格２］　　［ 摘要 ］　　1　　m3　　当り

標準単価		代表機労材規格		構成比	基準単価	積算規格		単　価	補　正 構成比	備　考
	A	構造物種別	=1		無筋･鉄筋構造物					
	B	打設工法	=1		ｺﾝｸﾘｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟ車打設					
	C	ｺﾝｸﾘｰﾄ規格	=16		24-8-20BB[水ｾﾒﾝﾄ比　55%以下]					
	D	設計日打設量	=1		10m3以上100m3未満					
	E	養生工の種類	=2		一般養生					
	F	圧送管延長距離区分	=1		延長無し					

型枠

積算単価算出表

施工　第0 -0017号内訳表　　頁0-0031/0056

［規格１］一般型枠　　［規格２］鉄筋･無筋構造物　　［ 摘要 ］　　1　　m2　　当り

標準単価	代表機労材規格			構成比	基準単価	積算規格		単　価	補　正 構成比	備　考
	K									
	R1		型わく工				型わく工			
	R2		普通作業員				普通作業員			
	R3		土木一般世話役				土木一般世話役			
	R									
	Z									
							計			
	積算単価　＝									
	A	型枠の種類	=1		一般型枠					
	B	構造物の種類	=1		鉄筋･無筋構造物					

コンクリート

積算単価算出表

施工　第0 -0018号内訳表　　頁0-0032/0056

［規格１］無筋･鉄筋構造物　　［規格２］　　［ 摘要 ］　　1　　m3　　当り

標準単価	代表機労材規格		構成比	基準単価	積算規格	単　価	補　正 構成比	備　考
	K1	ｺﾝｸﾘｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟ車 圧送能力90～110m3/h ﾄﾗｯｸ架装･ﾌﾞｰﾑ式			ｺﾝｸﾘｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟ車 [ﾄﾗｯｸ架装･ﾌﾞｰﾑ式] 90～110m3/h			
	K							
	R1	普通作業員			普通作業員			
	R2	土木一般世話役			土木一般世話役			
	R3	特殊作業員			特殊作業員			
	R4	運転手(特殊)			運転手(特殊)			
	R							
	Z1	生ｺﾝｸﾘｰﾄ 高炉24-12-25(20) W/C=55%			生ｺﾝｸﾘｰﾄ 18-8-40BB 水ｾﾒﾝﾄ比60%以下			
	Z2	軽油 ﾊﾟﾄﾛｰﾙ給油			軽油 パトロール給油			
	Z							
					計			
	積算単価　＝							

積算単価算出表

コンクリート　　施工　第0 -0018号内訳表　　

［規格１］無筋･鉄筋構造物　　［規格２］　　［ 摘要 ］　　1　　m3　　当り

標準単価		代表機労材規格		構成比	基準単価	積算規格		単　価	補　正 構成比	備　考
	A	構造物種別	=1		無筋･鉄筋構造物					
	B	打設工法	=1		ｺﾝｸﾘｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟ車打設					
	C	ｺﾝｸﾘｰﾄ規格	=9		18-8-40BB[水ｾﾒﾝﾄ比 60%以下]					
	D	設計日打設量	=1		10m3以上100m3未満					
	E	養生工の種類	=2		一般養生					
	F	圧送管延長距離区分	=1		延長無し					

施工単価表

施工　第0 -0019号内訳表　　

足場工設置・撤去

［規格１］　［規格２］　［ 摘要 ］　100　掛m2　当り

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
土木一般世話役		人			1
とび工		人			1
普通作業員		人			1
ﾗﾌﾃﾚｰﾝｸﾚｰﾝ(排出ｶﾞｽ対策型含) 油圧伸縮ｼﾞﾌﾞ型 最大吊上能力25t吊 ｵﾍﾟﾚｰﾀ付き		日			1
諸雑費		%			#01
合　計	100	掛m2			
単　位　当　り	1	掛m2			
A　工　法 B　安全ﾈｯﾄの有無		=3 =1	単管傾斜足場 安全ﾈｯﾄなし		

積算単価算出表

目地板

施工　第0 -0020号内訳表

［規格１］瀝青質目地板 t=20mm　［規格２］　［ 摘要 ］　1　m2　当り

標準単価	代表機労材規格			構成比	基準単価	積算規格		単　価	補　正 構成比	備　考
	K									
	R1		普通作業員				普通作業員			
	R2		土木一般世話役				土木一般世話役			
	R									
	Z1		瀝青繊維質目地板 厚さ10mm				瀝青質板 (厚20mm)			
	Z									
							計			
	積算単価　＝									
	A	1工事当り使用量	=1		30m2未満					
	B	目地板の種類	=4		瀝青質目地板 t=20mm					

施工単価表

施工　第0 -0021号内訳表　　

硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管人力布設

［規格１］VP　50mm　　［規格２］直管(両差し口)4.0m管　　［ 摘要 ］　　10　m　当り

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
一般用硬質塩化ﾋﾞﾆﾙ管(VP管) 径50mm×厚4.1mm×長4000mm		本			1
雑材料費	2.00	%			#01
土木一般世話役		人			
特殊作業員		人			
普通作業員		人			
合　計	10	m			
単　位　当　り	1	m			
A　管種区分		=1	VP		
B　呼び径(mm)		=7	50		
C　形状･管長区分		=1	直管(両差し口)4.0m管		
D　接合箇所		=1	3箇所以内		

施工単価表

施工　第0 -0022号内訳表　　頁0-0037/0056

吸出防止材設置

［規格１］　［規格２］　［ 摘要 ］　100　m2　当り

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
普通作業員		人			
吸出防止材		m2			
合　計	100	m2			
単　位　当　り	1	m2			
A　★★吸出防止材単価(円/m2)		=	★★吸出防止材単価(円/m2)		

積算単価算出表

コンクリート

施工　第0 -0023号内訳表　　頁0-0038/0056

［規格１］無筋･鉄筋構造物　　［規格２］　　［ 摘要 ］　　1　　m3　　当り

標準単価		代表機労材規格	構成比	基準単価	積算規格	単　価	補　正 構成比	備　考
	K1	ｺﾝｸﾘｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟ車 圧送能力90～110m3/h ﾄﾗｯｸ架装･ﾌﾞｰﾑ式			ｺﾝｸﾘｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟ車 [ﾄﾗｯｸ架装･ﾌﾞｰﾑ式] 90～110m3/h			
	K							
	R1	普通作業員			普通作業員			
	R2	土木一般世話役			土木一般世話役			
	R3	特殊作業員			特殊作業員			
	R4	運転手(特殊)			運転手(特殊)			
	R							
	Z1	生ｺﾝｸﾘｰﾄ 高炉24-12-25(20) W/C=55%			生ｺﾝｸﾘｰﾄ 18-8-20BB 水ｾﾒﾝﾄ比60%以下			
	Z2	軽油 ﾊﾟﾄﾛｰﾙ給油			軽油 パトロール給油			
	Z							
					計			
	積算単価　＝							

積算単価算出表

コンクリート　　施工　第0 -0023号内訳表　　

［規格１］無筋･鉄筋構造物　　［規格２］　　［ 摘要 ］　　1　　m3　　当り

標準単価		代表機労材規格		構成比	基準単価	積算規格		単　価	補　正 構成比	備　考
	A	構造物種別	=1		無筋･鉄筋構造物					
	B	打設工法	=1		ｺﾝｸﾘｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟ車打設					
	C	ｺﾝｸﾘｰﾄ規格	=26		18-8-20BB[水ｾﾒﾝﾄ比 60%以下]					
	D	設計日打設量	=1		10m3以上100m3未満					
	E	養生工の種類	=2		一般養生					
	F	圧送管延長距離区分	=1		延長無し					

施工単価表

施工　第0 -0024号内訳表　　

フリューム復旧

［規格１］B300　　［規格２］　　［ 摘要 ］　　1　式　当り

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾘｭｰﾑ機械据付工 呼称　300型 受台なし		m			施工　第0-0025号内訳表
ﾓﾙﾀﾙ現場練合わせ 1:3 防水剤なし		m3			施工　第0-0027号内訳表
コンクリート 無筋･鉄筋構造物	0.104	m3			施工　第0-0018号内訳表
型枠 一般型枠 均しｺﾝｸﾘｰﾄ	0.37	m2			施工　第0-0028号内訳表
基礎砕石 砕石厚->12.5cmを超え17.5cm以下 再生ｸﾗｯｼｬﾗﾝ RC-30,RC-40	2.072	m2			施工　第0-0029号内訳表
単　位　当　り	1	式			

施工単価表

施工　第0 -0025号内訳表　　頁0-0041/0056

鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾘｭｰﾑ機械据付工

［規格１］呼称　300型　　［規格２］受台なし　　［ 摘要 ］　　10　m　当り

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
土木一般世話役		人			
特殊作業員		人			
普通作業員		人			
鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾘｭｰﾑ 300 310×275×4		個			
ﾊﾞｯｸﾎｳ運転（賃料）		日			
鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾘｭｰﾑ接合部品 ﾌﾘｭｰﾑﾀｲﾄ　300		枚			
合　計		m			
単　位　当　り	1	m			
A　材料規格 B　受台の有無		=3 =2	呼称　300型 受台なし		

施工単価表

施工　第0 -0027号内訳表　　頁0-0042/0056

ﾓﾙﾀﾙ現場練合わせ

［規格１］1:3 防水剤なし　　［規格２］　　［ 摘要 ］　　1　m3　当り

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ （袋物25kg入り）		t			
砂 洗砂		m3			
普通作業員		人			1
諸雑費	9.00	%			#01
単　位　当　り	1	m3			
A　ｾﾒﾝﾄ配合比区分 B　洗砂材料区分		=4 =1	1:3 防水剤なし 洗砂(荒目)		

型枠

積算単価算出表

施工　第0 -0028号内訳表　　頁0-0043/0056

［規格１］一般型枠　　［規格２］均しｺﾝｸﾘｰﾄ　　［ 摘要 ］　　1　　m2　　当り

標準単価	代表機労材規格			構成比	基準単価	積算規格		単　価	補　正 構成比	備　考
	K									
	R1		型わく工				型わく工			
	R2		普通作業員				普通作業員			
	R3		土木一般世話役				土木一般世話役			
	R									
	Z									
							計			
	積算単価　＝									
	A	型枠の種類	=1		一般型枠					
	B	構造物の種類	=4		均しｺﾝｸﾘｰﾄ					

基礎砕石

積算単価算出表

施工　第0 -0029号内訳表　　頁0-0044/0056

［規格１］砕石厚->12.5cmを超え17.5cm以下　［規格２］再生ｸﾗｯｼｬﾗﾝ RC-30,RC-40　［ 摘要 ］　1　m2　当り

標準単価		代表機労材規格	構成比	基準単価		積算規格	単　価	補　正 構成比	備　考
	K1	ﾊﾞｯｸﾎｳ ﾊﾞｹｯﾄ容量0.8m3 ｸﾛｰﾗ型 排出ｶﾞｽ対策型含				ﾊﾞｯｸﾎｳ(排出ｶﾞｽ対策型・超低騒音型含) 油圧式ｸﾛｰﾗ型 ﾊﾞｹｯﾄ容量0.8m3			
	K								
	R1	普通作業員				普通作業員			
	R2	特殊作業員				特殊作業員			
	R3	運転手(特殊)				運転手(特殊)			
	R4	土木一般世話役				土木一般世話役			
	R								
	Z1	再生ｸﾗｯｼｬｰﾗﾝ RC-40				再生切込砕石 (0～30mm・0～40mm)			
	Z2	軽油 ﾊﾟﾄﾛｰﾙ給油				軽油 パトロール給油			
	Z								
						計			
	積算単価　＝								

基礎砕石

積算単価算出表

施工　第0 -0029号内訳表

［規格１］砕石厚->12.5cmを超え17.5cm以下　［規格２］再生ｸﾗｯｼｬﾗﾝ RC-30,RC-40　［ 摘要 ］　1　m2　当り

標準単価	代表機労材規格		構成比	基準単価	積算規格		単　価	補　正 構成比	備　考
	A	砕石の厚さ =3		12.5cmを超え17.5cm以下					
	B	砕石の種類 =1		再生ｸﾗｯｼｬﾗﾝ RC-30,RC-40					

施工単価表

施工　第0 -0030号内訳表　　頁0-0046/0056

土工用ﾏｯﾄ(ｼｰﾄ類)敷設･撤去

［規格１］敷設～撤去　　［規格２］　　［ 摘要 ］　　100　m2　当り

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
普通作業員		人			
土木安定用材(ﾏｯﾄ･ｼｰﾄ類)		m2			
合　計	100	m2			
単　位　当　り	1	m2			
A　施工区分 B　土木安定用材の1m2当たり単価(円/m2)		=1 =	敷設～撤去 土木安定用材の1m2当たり単価(円/m2)		

積算単価算出表

路体(築堤)盛土　　施工　第0 -0031号内訳表　　頁0-0047/0056

［規格１］4.0m以上　　［規格２］　　［ 摘要 ］　　1　　m3　　当り

標準単価	代表機労材規格			構成比	基準単価	積算規格		単　価	補　正 構成比	備　考
	K1		ﾌﾞﾙﾄﾞｰｻﾞ　通称7t級 湿地･排出ｶﾞｽ対策型(2011年) 排出ｶﾞｽ対策型含				ﾌﾞﾙﾄﾞｰｻﾞ(排出ｶﾞｽ対策型含) 湿地　通称7t級			
	K2		振動ﾛｰﾗ(土工用)　運転質量11～12t ﾌﾗｯﾄ･ｼﾝｸﾞﾙﾄﾞﾗﾑ型 排出ｶﾞｽ対策型含				振動ﾛｰﾗ(排出ｶﾞｽ対策型含) ﾌﾗｯﾄ･ｼﾝｸﾞﾙﾄﾞﾗﾑ型　運転質量11～12t			
	K									
	R1		運転手(特殊)				運転手(特殊)			
	R2		普通作業員				普通作業員			
	R									
	Z1		軽油 ﾊﾟﾄﾛｰﾙ給油				軽油 パトロール給油			
	Z									
							計			
	積算単価　＝									
	A	施工幅員	=3		4.0m以上					
	B	施工数量	=1		20,000m3未満					
	C	障害の有無	=1		無し					

掘削

積算単価算出表

施工　第0 -0032号内訳表　　頁0-0048/0056

［規格１］ 土砂 ｵｰﾌﾟﾝｶｯﾄ　　［規格２］ 5,000m3未満　　［ 摘要 ］　　1　m3　当り

標準単価			代表機労材規格	構成比	基準単価		積算規格	単　価	補　正 構成比	備　考
	K1		ﾊﾞｯｸﾎｳ(ｸﾛｰﾗ型) ﾊﾞｹｯﾄ容量0.8m3 標準型･超低騒音型 排出ｶﾞｽ対策型(2014年)				ﾊﾞｯｸﾎｳ(ｸﾛｰﾗ型) [標準型･超低騒音型･排ｶﾞｽ対策型(2014年] ﾊﾞｹｯﾄ容量0.8m3			
	K									
	R1		運転手(特殊)				運転手(特殊)			
	R									
	Z1		軽油 ﾊﾟﾄﾛｰﾙ給油				軽油 パトロール給油			
	Z									
							計			
	積算単価 ＝									
	A	土質	=1		土砂					
	B	施工方法	=1		ｵｰﾌﾟﾝｶｯﾄ					
	C	押土の有無	=2		無し					
	D	障害の有無	=1		無し					
	E	施工数量	=3		5,000m3未満					

積算単価算出表

土砂等運搬　　施工　第0 -0033号内訳表　　頁0-0049/0056

［規格１］ 土質->土砂(岩塊･玉石混り土含む)　　［規格２］　　［ 摘要 ］　　1　　m3　　当り

標準単価	代表機労材規格			構成比	基準単価	積算規格		単　価	補　正 構成比	備　考
	K1		ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ[ｵﾝﾛｰﾄﾞ･ﾃﾞｨｰｾﾞﾙ] 通称10t積級 ﾀｲﾔ損耗費及び補修費(良好)含む				ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ 通称10t積級[ｵﾝﾛｰﾄﾞ･ﾃﾞｨｰｾﾞﾙ] ﾀｲﾔ損耗費及び補修費(良好)含む			
	K									
	R1		運転手(一般)				運転手(一般)			
	R									
	Z1		軽油 ﾊﾟﾄﾛｰﾙ給油				軽油 パトロール給油			
	Z									
							計			
	積算単価　＝									
	A	土砂等発生現場	=1		標準					
	B	積込機種･規格	=1		ﾊﾞｯｸﾎｳ ﾊﾞｹｯﾄ容量0.8m3					
	C	土質	=1		土砂(岩塊･玉石混り土含む)					
	D	DID区間の有無	=1		無し					
	E	運搬距離1	=1		0.3km以下					

施工単価表

施工　第0 -0034号内訳表　　

県版　耕地復旧(表土掘削･埋戻)

［規格１］　［規格２］　［ 摘要 ］　1　m2　当り

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
ﾊﾞｯｸﾎｳ(排出ｶﾞｽ対策型･超低騒音型含) 油圧式ｸﾛｰﾗ型 ﾊﾞｹｯﾄ容量0.8m3		日			山積0.80m3(平積0.60m3)
軽油 パトロール給油		L			
運転手(特殊)		人			
単価					
単　位　当　り	1	m2			
A　施工区分 B　厚さ区分(cm)		=1 =1	表土掘削 15		

施工単価表

施工　第0 -0035号内訳表　　頁0-0051/0056

県版　耕地復旧(表土掘削･埋戻)

［規格１］　［規格２］　［ 摘要 ］　1　m2　当り

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
ﾊﾞｯｸﾎｳ(排出ｶﾞｽ対策型･超低騒音型含) 油圧式ｸﾛｰﾗ型 ﾊﾞｹｯﾄ容量0.8m3		日			山積0.80m3(平積0.60m3)
軽油 パトロール給油		L			
運転手(特殊)		人			
単価					
単　位　当　り	1	m2			
A　施工区分 B　厚さ区分(cm)		=2 =1	表土埋戻 15		

施工単価表

施工　第0 -0036号内訳表　　頁0-0052/0056

ｺﾙｹﾞｰﾄﾊﾟｲﾌﾟ水路工

［規格１］砕石なし　　［規格２］　　［ 摘要 ］　　10　m　当り

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
ｺﾙｹﾞｰﾄﾊﾟｲﾌﾟ（半円管）　φ600mm　t=1.6		m			
止杭　長さ1.0m 末口径10.0cm		本			
普通鉄線,#10,径3.2mm 15.8m/kg		kg			
普通作業員		人			
合　　計	10	m			
単　位　当　り	1	m			
A　設置条件 B　砕石の有無 C　★★ｺﾙｹﾞｰﾄﾊﾟｲﾌﾟの単価(円/m) D　★★止杭の単価(円/本)		=2 =3 = =	上記以外の設置 砕石なし ★★ｺﾙｹﾞｰﾄﾊﾟｲﾌﾟの単価(円/m) ★★止杭の単価(円/本)		

施工単価表

施工　第0 -0037号内訳表　　頁0-0053/0056

鋼管吊込み撤去（機械力）

［規格１］呼び径　400mm　呼び厚さ　Ａ種　　［規格２］　　［ 摘要 ］　　10　m　当り

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
特殊作業員 配管工単価		人			
普通作業員		人			
ﾄﾗｯｸｸﾚｰﾝ 油圧伸縮ｼﾞﾌﾞ型 最大吊上能力4.9t吊 ｵﾍﾟﾚｰﾀ付き		日			
合　計	10	m			
単　位　当　り	1	m			
A　作業区分 B　呼び径 C　呼び厚さ		=2 =9 =1	撤去 呼び径　400mm 呼び厚さ　Ａ種		
D　現場状況		=1	良好（係数　1.0）		

施工単価表

施工　第0 -0038号内訳表　　頁0-0054/0056

大型土のう製作･設置

［規格１］　［規格２］購入土　［ 摘要 ］　10　袋　当り

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
土木一般世話役		人			1
特殊作業員		人			1
普通作業員		人			1
大型土のう(1.5t用) φ110(丸形)×110(ﾌﾀ付)		枚			
購入土 (無規格)		m3			
ﾊﾞｯｸﾎｳ運転（賃料）		日			
諸雑費		%			#01
合　計	10	袋			
単　位　当　り	1	袋			
A　作業区分 B　土のう袋の種類 C　袋詰土区分		=1 =1 =1	製作･設置 普通型(1.5t用) 購入土		
D　作業半径 E　設置面高さ		=1 =1	5m以下 -3m ≦ H ≦ 2m		

施工単価表

施工　第0 -0040号内訳表　　頁0-0055/0056

大型土のう撤去

［規格１］　［規格２］　［ 摘要 ］　10　袋　当り

名　称　・　規　格	数　量	単　位	単　価	金　額	備　考
土木一般世話役		人			1
特殊作業員		人			1
ﾊﾞｯｸﾎｳ運転（賃料）		日			
諸雑費		%			#01
合　計	10	袋			
単　位　当　り	1	袋			
A　作業区分 D　作業半径 E　設置面高さ		=4 =3 =1	撤去 6m以下 -3m ≦ H ≦ 2m		

施工単価表

施工　第0 -0042号内訳表　　頁0-0056/0056

土のう工

［規格１］仕拵え～設置～撤去　　［規格２］　　［ 摘要 ］　　10　　m3　　当り

名　称　・　規　格	数　　量	単　位	単　　価	金　　額	備　　考
普通作業員		人			
土のう 62cm×48cm		袋			
土砂		m3			
合　　計	10	m3			
単　位　当　り	1	m3			
A　施工区分 B　土砂単価(円/m3)		=1 =	仕拵え～設置～撤去 土砂単価(円/m3)		

1. 数 量 総 括 表

数量総括表

工種	種　別	細　別	規　格	単位	数　量	備　考
土工						
	掘削工					
		掘削	片切り	m^3	190	
		床掘		m^3	200	
	盛土工					
		流用土盛土	C：1.0m＜W＜2.5m	m^3	33	
		流用土盛土	D：W＜1.0m	m^3	6	
		埋戻し	C：1.0m＜W＜2.5m	m^3	78	
		埋戻し	D：W＜1.0m	m^3	22	
		構造物周辺		m^3	66	
整形仕上げ工						
	法面整形					
		法面整形	盛土法面	m^2	61	
		畦畔整形工		m^2	2	
作業残土処理工	土砂等運搬					
		土砂等運搬		m^3	170	
		処分		m^3	170	
構造物取壊し工						
	コンクリート構造物取壊し					
		構造物とりこわし工		m^3	173	
井堰本体工	殻運搬					
		殻運搬		m^3	173	
		処分		m^3	173	

数量総括表

	コンクリート					
		コンクリート	24-8-25	m^3	216	
	型枠					
		型枠		m^2	92	
現場打擁壁工						
	コンクリート					
		コンクリート	18-8-40	m^3	72	
	型枠					
		型枠		m^2	213	
	足場					
		足場	単管傾斜足場	掛m2	83	
	目地板					
		目地板	エラスタイト　t=20	m^2	7	
	水抜きパイプ					
		硬質ポリ塩化ビニル管人力布設	VPφ50	m	24.0	
	吸出し防止材					
		吸出防止材設置	300×300	m^2	4	
張コンクリートエ						
	張コンクリートエ					
		コンクリート	18-8-25	m^3	19	
プレキャスト水路工						
	鉄筋コンクリートU形					
		フリューム復旧	B300	式	1	
仮設道路工						

数量総括表

	安定シート					
		土工用マット(シート類)敷設・撤去	ナイロン織布シート　t=0.3～0.5m	m^2	397	
	工事用道路工					
		路体(築堤)盛土	盛土（4.0m≦B)	m^3	87	
		購入土		m^3	97	
		掘削		m^3	87	
		土砂等運搬		m^3	89	盛土+大型土のう+土のう 87+1.67+0.6
		表土掘削・埋戻	t=150	m^2	342	
	仮水路工					
		コルゲートパイプ水路工	φ400	m	34	
		大型土のう	製作・設置・撤去	袋	2	1.67
		土のう工		m^3	0.6	

2. 土 工

土工数量集計表

【レベル2】 工種	【レベル3】 種　別	【レベル4】 細　別	【レベル5】 規　格	単位	数　量	備　考
河川土工	掘削工					
		掘削				
			片切り	m^3	192.6	
	残土処理工					
		残土処理				
			土砂	m^3	167.0	
作業土工	護岸基礎作業土工					
		床掘		m^3	203.0	
		盛土	C:1.0ｍ＜W＜2.5m	m^3	32.9	
		盛土	D:W＜1.0m	m^3	5.9	
		埋戻し	C:1.0ｍ＜W＜2.5m	m^3	78.3	
		埋戻し	D:W＜1.0m	m^3	22.3	
		構造物周辺		m^3	66.3	
	基面整正			m^2	125.9	床堀に含む
法面整形	法面整形工	盛土法面		m^2	60.5	
	畦畔整形工			m^2	1.8	

工種	河川土工　数量計算書																
細別	単距離	河川土工　数量計算書															備考
		掘削　片切			床堀			盛土①			盛土③			盛土④			
		断面積		体積	断面積		体積	断面積		体積	断面積		体積	断面積		体積	
		面積	平　均		面積	平　均		面積	平　均		面積	平　均		面積	平　均		
	(m)	(m^2)	(m^2)	(m^3)	(m^2)	(m^2)	(m^3)	(m^2)	(m^2)	(m^3)	(m^2)	(m^2)	(m^3)	(m^2)	(m^2)	(m^3)	
NO.1 ＋ 2.83		1.1			1.2			0.0			0.0			0.0			
NO.1 ＋ 7.73	4.90	1.0	1.05	5.1	1.2	1.20	5.9	0.0	0.00	0.0	0.0	0.00	0.0	0.1	0.05	0.2	
NO.1 ＋ 7.73	0.00	18.3	9.65	0.0	15.8	8.50	0.0	0.0	0.00	0.0	4.2	2.10	0.0	0.3	0.20	0.0	
NO.1 ＋ 13.15	5.42	15.5	16.90	91.6	15.8	15.80	85.6	0.0	0.00	0.0	2.7	3.45	18.7	0.3	0.30	1.6	
NO.1 ＋ 20.11	6.96	3.9	9.70	67.5	5.8	10.80	75.2	0.0	0.00	0.0	0.8	1.75	12.2	0.4	0.35	2.4	
NO.1 ＋ 22.30	2.19	5.1	4.50	9.9	9.3	7.55	16.5	0.0	0.00	0.0	1.0	0.90	2.0	0.5	0.45	1.0	
NO.1 ＋ 22.30	0.00	2.3	3.70	0.0	2.5	5.90	0.0	0.0	0.00	0.0	0.0	0.50	0.0	0.0	0.25	0.0	
NO.1 ＋ 35.50	13.20	0.5	1.40	18.5	0.5	1.50	19.8	0.0	0.00	0.0	0.0	0.00	0.0	0.1	0.05	0.7	
合　計	32.7			192.6			203.0			0.0			32.9			5.9	

工種	護岸天端　数量計算書																	
細別	単距離	作業土工																備考
		構造物周辺			埋戻しB			埋戻しC			埋戻しD			基面整正				
		断面積		体積	断面積		体積	断面積		体積	断面積		体積	断面積		面積		
	(m)	面積 (m^2)	平均 (m^2)	(m^3)	面積 (m^2)	平均 (m^2)	(m^3)	面積 (m^2)	平均 (m^2)	(m^3)	面積 (m^2)	平均 (m^2)	(m^3)	延長 (m)	平均 (m)	(m^2)		
NO.1 ＋ 2.83		0.4			0.0			0.0			0.0			3.5				
NO.1 ＋ 7.73	4.90	0.3	0.35	1.7	0.0	0.00	0.0	0.0	0.00	0.0	0.0	0.00	0.0	4.2	3.85	18.9		
NO.1 ＋ 7.73	0.00	4.6	2.45	0.0	0.0	0.00	0.0	9.7	4.85	0.0	2.5	1.25	0.0	7.7	5.95	0.0		
NO.1 ＋ 13.15	5.42	4.5	4.55	24.7	0.0	0.00	0.0	8.4	9.05	49.1	2.5	2.50	13.6	7.7	7.70	41.7		
NO.1 ＋ 20.11	6.96	2.2	3.35	23.3	0.0	0.00	0.0	0.0	4.20	29.2	0.0	1.25	8.7	2.5	5.10	35.5		
NO.1 ＋ 22.30	2.19	3.3	2.75	6.0	0.0	0.00	0.0	0.0	0.00	0.0	0.0	0.00	0.0	3.0	2.75	6.0		
NO.1 ＋ 22.30	0.00	1.4	2.35	0.0	0.0	0.00	0.0	0.0	0.00	0.0	0.0	0.00	0.0	2.0	2.50	0.0		
NO.1 ＋ 35.50	13.20	0.2	0.80	10.6	0.0	0.00	0.0	0.0	0.00	0.0	0.0	0.00	0.0	1.6	1.80	23.8		
合計	32.7			66.3			0.0			78.3			22.3			125.9		

工種	護岸天端　数量計算書																	
細別	単距離	作業土工																備考
		法面整形工（盛土法面）			畦畔整形工													
		断面積		面積	断面積		面積											
		延長	平　均		延長	平　均												
	(m)	(m)	(m)	(m^2)	(m)	(m)	(m^2)											
NO.1 ＋ 2.83		0.0			0.0													
NO.1 ＋ 7.73	4.90	1.1	0.55	2.7	0.0	0.00	0.0											
NO.1 ＋ 7.73	0.00	4.4	2.75	0.0	0.0	0.00	0.0											
NO.1 ＋ 13.15	5.42	3.9	4.15	22.5	0.3	0.15	0.8											
NO.1 ＋ 20.11	6.96	3.3	3.60	25.1	0.0	0.15	1.0											
NO.1 ＋ 22.30	2.19	3.6	3.45	7.6	0.0	0.00	0.0											
NO.1 ＋ 22.30	0.00	0.0	1.80	0.0	0.0	0.00	0.0											
NO.1 ＋ 35.50	13.20	0.4	0.20	2.6	0.0	0.00	0.0											
合　計	32.7			60.5			1.8											

河川土工　残土処理工

	土砂	土砂	土砂	土砂	土砂	土砂	土砂	土砂	土砂	土砂
工種	掘削	床堀	盛土			埋戻				
			①	③	④	A	B	C	D	構造物周辺
河川土工	192.6	－	－	－	－	－	－	－	－	－
作業土工	－	203.0	－	32.9	5.9	－	－	78.3	22.3	66.3
合計	192.6	203.0	0.0	32.9	5.9	0.0	0.0	78.3	22.3	66.3

残土処理工= 掘削+床掘－(盛土+埋戻)／C

= 掘削+床掘－(盛土+埋戻)／0.9

= 192.6+203.0-(0.0+32.9+5.9+0.0+0.0+78.3+22.3+66.3)/0.9

= 167.0　　m^3　（残土）

3.　井　堰　本　体　工

井堰本体工数量集計表

【レベル2】 工種	【レベル3】 種　別	【レベル4】 細　別	【レベル5】 規　格	単位	数　量	備　考
井堰本体工						
	コンクリート					
		ｺﾝｸﾘｰﾄ	24-8-25	m3	215.8	
		型枠		m2	91.5	

数　量　計　算　書

工種：井堰①

種別：本体工

細目 規格	計　　算　　式		計　算 過程値	単位	数量
本体工					
ｺﾝｸﾘｰﾄ					
	V1= 1/2×(3.75+3.75)×5.30×7.74	=	153.83	m3	
	V2= 1/2×(3.75+1.55)×1.05×7.74	=	21.54	m3	
	V3= 1/2×(3.922+2.989)×1.55×2.314	=	12.39	m3	
	V4= {1/2×(3.922+2.989) ×1.55+1/2×(2.069+1.136)×1.55}×1/2×5.7	=	22.66	m3	
	V5= 1/2×(0.55+0.40)×0.50×1.136	=	0.27	m3	
	ΣV=		210.69	m3	210.7
型枠工					
	A1= 1/2×(3.75+3.75)×5.30×2	=	39.75	m2	
	A2= 1/2×(3.75+1.55)×1.05×2	=	5.57	m2	
	A3= 2.2×1.108×7.74	=	18.87	m2	
	A4= 0.5×1.136	=	0.57	m2	
	A5= 1/2×(0.55+0.40)×0.50×2	=	0.48	m2	
	A6= 1/2×(2.069+1.136)×1.55	=	2.48	m2	
	ΣA=		67.72	m2	67.7

数　量　計　算　書

工種：井堰①

種別：本体工

細目 規格	計　　算　　式		計　算 過程値	単位	数量
本体上部工					
コンクリート					
	V1= 1/2×(0.30+0.48)×0.60×1.70+((1/2×(0.3＋0.48))×0.60＋1/2×(0.4+0.792)×1.307)×4.01×1/2	=	2.43	m3	
	V2= 1/2×(0.40+0.667)×0.89×1.70+(1/2×(0.4＋0.67))×0.89＋1/2×(0.4+0.713)×1.044×3.6×1/2	=	2.33	m3	
	V3= 1/2×(0.40+0.50)×0.33×0.60	=	0.09	m3	
	V4= 1/2×(0.96+0.90)×0.20×0.60-0.1×0.15×0.2	=	0.11	m3	
	V5= 1/2×(0.86+0.80)×0.20×0.60-0.1×0.15×0.2	=	0.10	m3	
	ΣV=		5.06	m3	5.1
型枠工					
	A1= 1/2×(0.30+0.48)×0.60+1/2×(0.4+0.79)×1.31	=	1.01	m2	
	A2= 1/2×(0.40+0.667)×0.89＋1/2×(0.4+0.713)×1.044	=	1.06	m2	
	A3= 1/2×(0.40+0.50)×0.33×2	=	0.30	m2	
	A4= 1/2×(0.96+0.90)×0.20+(1/2×(0.96+0.90)-0.15)×0.20+0.15×0.20	=	0.37	m2	
	A5= 1/2×(0.86+0.80)×0.20+(1/2×(0.86+0.80)-0.15)×0.20+0.15×0.20	=	0.33	m2	
	A6= (0.6-0.1)×0.20×2+0.1×0.2×2	=	0.24	m2	
	A7= 0.60×1.70+0.60×1.044×1.70	=	2.08	m2	
	A8= 0.89×1.70+0.89×1.044×1.70	=	3.09	m2	
	A9= 0.33×0.60+0.33×1.044×0.60	=	0.40	m2	
	A10= 1/2×((0.60+1.307)+(0.6＋1.307)×1.044)×4.01	=	7.82	m2	
	A10= 1/2×((0.89+1.044)+(0.89＋1.044)×1.044)×3.60	=	7.12	m2	
	ΣA=		23.82	m2	23.8

4. 張コンクリート工

張コンクリート工数量集計表						
【レベル2】 工種	【レベル3】 種　　別	【レベル4】 細　　別	【レベル5】 規　　格	単位	数　量	備　　考
張コンクリート工						
	張コンクリート工					
		コンクリート	18-8-25	m3	18.9	

数　量　計　算　書

工種：張コンクリート

種別：張コンクリートエ

細目 規格	計　算　式		計 算 過程値	単位	数量
本体工					
張ｺﾝｸﾘｰﾄ					
	A=　{(2.069+1.769)+(1.996+1.696)}×1/2×13.200×1/2	=	24.85	m2	
	{(4.25+4.13)+(2.772+2.652)}×1/2×(4.80+4.545)×1/2	=	32.25	m2	
	ΣA=		57.10	m2	57.1
	V= 0.50×　{(2.069+1.769)+(1.996+1.696)}×1/2×13.200×1/2	=	12.42	m3	
	0.20×　{(4.25+4.13)+(2.772+2.652)}×1/2×(4.80+4.545)×1/2	=	6.45	m3	
	ΣV=		18.87	m3	18.9

5. 護 岸 工

護　　岸　　工

種　　別	細　　別	規　　格	単位	数　量	備　考
もたれ式擁壁工					
	コンクリート	18-8-40	m3	71.7	
	型枠		m2	213.1	
	足場工	単管傾斜足場	掛m2	83.1	
	目地材	エラスタイト　t=20	m2	6.8	
	水抜きパイプ	VPφ50	m	24.0	
	吸出し防止材	300×300	m2	4	

工種 名称・区分	数量計算書 算　　式			単位	数　量
もたれ式擁壁工					
コンクリート (18-8-40)	別紙計算書より				
	右岸	NO.1+3.59～NO.1+7.155	= 5.90	m3	
	左岸	NO.1+2.83～NO.1+11.45	= 6.02	m3	
		NO.1+13.15～NO.1+35.448	= 59.81	m3	
			合計 71.73	m3	71.7

工種 名称・区分	数量計算書 算　　式			単位	数　量
型枠	別紙計算書より				
	右岸　NO.1+3.59～NO.1+7.155	=	18.75	m2	
	左岸　NO.1+2.83～NO.1+11.45	=	19.33	m2	
	NO.1+13.15～NO.1+35.448	=	175.04	m2	
	合計		213.12	m2	213.1
足場工 (単管傾斜足場)	別紙計算書より				
	右岸　NO.1+3.59～NO.1+7.155	=	0.00	掛m2	
	左岸　NO.1+2.83～NO.1+11.45	=	0.00	掛m2	
	NO.1+13.15～NO.1+35.448	=	83.08	掛m2	
	合計		83.08	掛m2	83.1
水抜きパイプ	型枠面積/2				
VPφ50　L=0.6	右岸　a1= 12.17/2				
(2～3m2/１箇所)		=	6.09	m2	
	左岸　a2= (11.99+133.86)/2				
		=	72.93	m2	
	合計		79.02	m2	
	N= 79.02/2.0m2	=	39.5	箇所	40
	L= 40×0.60	=	24.0	m	24.0
吸出し防止材					
300×300				枚	40
	40×0.3×0.3	=	3.60	m2	3.6

もたれ式擁壁工(右岸側)

NO.1+3.59～NO.1+7.155　　前面勾配 0.30　　背面勾配 0.20　　天端幅 0.550

測　点	天端距離	底面距離	平均距離	寸法			体積			型枠					足場工		
	(m)	(m)	(m)	H (m)	b1 (m)	b2 (m)	断面 (m^2)	平均 (m^2)	体積 (m^3)	前壁 (m)	背壁 (m)	合計 (m)	平均 (m)	面積 (m^2)	直高 (m)	平均 (m)	面積 (掛m^2)
NO.1 +3.59	NO.1 +7.155																
	4.54	4.54	4.54	1.990	0.550	0.750	1.29			2.08	2.03	4.11					
				2.007	0.550	0.750	1.30	1.30	5.90	2.10	2.05	4.15	4.13	18.75			
水抜きパイプ算定用																	
NO.1 +3.59	NO.1 +7.155																
	4.54	4.54	4.54	1.290	0.550	0.680				1.35	1.32	2.67					
				1.307	0.550	0.680				1.36	1.33	2.69	2.68	12.17			
合　計	4.54	4.54	4.54						5.90					18.75			

もたれ式擁壁工(左岸側)

NO.1+2.83～NO.1+11.45　　前面勾配 0.30　背面勾配 0.20　天端幅 0.550

測　点	天端距離 (m)	底面距離 (m)	平均距離 (m)	寸法 H (m)	b1 (m)	b2 (m)	体積 断面 (m^2)	平均 (m^2)	体積 (m^3)	型枠 前壁 (m)	背壁 (m)	合計 (m)	平均 (m)	面積 (m^2)	足場工 直高 (m)	平均 (m)	面積 (掛m^2)
NO.1 +2.83	NO.1 ～ +11.45	5.06	5.06	5.06	1.958	0.550	0.750	1.27			2.04	2.00	4.04					
					1.744	0.550	0.720	1.11	1.19	6.02	1.82	1.78	3.60	3.82	19.33			
水抜きパイプ算出用																		
NO.1 +2.83	NO.1 ～ +11.45	5.06	5.06	5.06	1.258	0.550	0.680				1.31	1.28	2.59					
					1.044	0.550	0.650				1.09	1.06	2.15	2.37	11.99			
合　計	5.06	5.06	5.06						6.02					19.33				

もたれ式擁壁工(左岸側)

NO.1+13.15～NO.1+35.448　　前面勾配 0.30　　背面勾配 0.156　　天端幅 0.400

測　点　co	天端距離	底面距離	平均距離	寸法			体積			型枠					足場工		
	(m)	(m)	(m)	H (m)	b1 (m)	b2 (m)	断面 (m^2)	平均 (m^2)	体積 (m^3)	前壁 (m)	背壁 (m)	合計 (m)	平均 (m)	面積 (m^2)	直高 (m)	平均 (m)	面積 (掛m^2)
NO.1 NO.1 +13.15 ～ +14.20	1.05	1.05	1.05	0.890	0.400	0.530	0.41			0.93	0.90	1.83					
				2.993	0.400	0.830	1.84	1.13	1.19	3.12	3.03	6.15	3.99	4.19			
NO.1 NO.1 +14.20 ～ +16.51	2.31	2.31	2.31	4.543	0.400	1.050	3.29			4.74	4.60	9.34			4.54		
				4.378	0.400	1.030	3.13	3.21	7.42	4.57	4.43	9.00	9.17	21.18	4.38	4.46	10.30
NO.1 NO.1 +16.51 ～ +18.088	1.57	1.57	1.57	4.378	0.400	1.030	3.13			4.57	4.43	9.00			4.38		
				5.670	0.400	1.220	4.59	3.86	6.06	5.92	5.74	11.66	10.33	16.22	5.67	5.02	7.88
NO.1 NO.1 +18.088 ～ +20.75	4.53	4.53	4.53	5.670	0.400	1.220	4.59			5.92	5.74	11.66			5.67		
				5.430	0.400	1.180	4.29	4.44	20.11	5.67	5.50	11.17	11.42	51.73	5.43	5.55	25.14
NO.1 NO.1 +20.75 ～ +22.15	0.43	0.43	0.43	4.380	0.400	1.030	3.13			4.57	4.43	9.00			4.38		
				4.539	0.400	1.050	3.29	3.21	1.38	4.74	4.59	9.33	9.17	3.94	4.54	4.46	1.92
NO.1 NO.1 +22.15 ～ +26.714	4.00	4.00	4.00	4.539	0.400	1.050	3.29			4.74	4.59	9.33			4.54		
				2.942	0.400	0.820	1.79	2.54	10.16	3.07	2.98	6.05	7.69	30.76	2.94	3.74	14.96
NO.1 NO.1 +26.714 ～ +30.267	3.55	3.55	3.55	2.942	0.400	0.820	1.79			3.07	2.98	6.05			2.94		
				2.690	0.400	0.790	1.60	1.70	6.04	2.81	2.72	5.53	5.79	20.55	2.69	2.82	10.01
NO.1 NO.1 +30.267 ～ +35.448	5.21	5.21	5.21	2.690	0.400	0.790	1.60			2.81	2.72	5.53			2.69		
				2.247	0.400	0.720	1.26	1.43	7.45	2.35	2.27	4.62	5.08	26.47	2.25	2.47	12.87
合　計	22.65	22.65	22.65						59.81					175.04			83.08

もたれ式擁壁工(左岸側)*水抜きパイプ算出用

NO.1+13.15～NO.1+35.448　　前面勾配 0.30　　背面勾配 0.156　　天端幅 0.400

測　点　co	天端距離	底面距離	平均距離	寸法			体積			型枠					足場工		
	(m)	(m)	(m)	H (m)	b1 (m)	b2 (m)	断面 (m^2)	平均 (m^2)	体積 (m^3)	前壁 (m)	背壁 (m)	合計 (m)	平均 (m)	面積 (m^2)	直高 (m)	平均 (m)	面積 (掛m^2)
NO.1 +13.15				0.890	0.400	0.530				0.93	0.90	1.83					
～ NO.1 +14.20	1.05	1.05	1.05														
				2.993	0.400	0.830				3.12	3.03	6.15	3.99	4.19			
NO.1 +14.20				2.993	0.400	0.830				3.12	3.03	6.15					
～ NO.1 +16.51	2.31	2.31	2.31														
				2.825	0.400	0.810				2.95	2.86	5.81	5.98	13.81			
NO.1 +16.51				2.825	0.400	0.810				2.95	2.86	5.81					
～ NO.1 +18.088	1.57	1.57	1.57														
				4.116	0.400	0.990				4.30	4.17	8.47	7.14	11.21			
NO.1 +18.088				4.116	0.400	0.990				4.30	4.17	8.47					
～ NO.1 +20.75	4.53	4.53	4.53														
				3.880	0.400	0.960				4.05	3.93	7.98	8.23	37.28			
NO.1 +20.75				3.880	0.400	0.960				4.05	3.93	7.98					
～ NO.1 +22.15	0.43	0.43	0.43														
				3.859	0.400	0.960				4.03	3.91	7.94	7.96	3.42			
NO.1 +22.15				3.859	0.400	0.960				4.03	3.91	7.94					
～ NO.1 +26.714	4.00	4.00	4.00														
				2.442	0.400	0.750				2.55	2.47	5.02	6.48	25.92			
NO.1 +26.714				2.442	0.400	0.750				2.55	2.47	5.02					
～ NO.1 +30.267	3.55	3.55	3.55														
				2.190	0.400	0.720				2.29	2.22	4.51	4.77	16.93			
NO.1 +30.267				2.190	0.400	0.720				2.29	2.22	4.51					
～ NO.1 +35.448	5.21	5.21	5.21														
				1.741	0.400	0.650				1.82	1.76	3.58	4.05	21.10			
合　計	22.65	22.65	22.65						0.00					133.86			0.00

工種 名称・区分	数量計算書 算　　式			単位	数　量
もたれ式擁壁工					
目地材(エラスタイト　t=20)					
側壁	A1= (0.4+0.4+(0.3-0.158)×4.380)/2×4.380	=	3.11	m2	
	A2= (0.4+0.4+(0.3-0.158)×2.942)/2×2.942	=	1.79	m2	
	A3= (0.4+0.4+(0.3-0.156)×3.062)/2×3.062	=	1.90	m2	
	~~A4=~~				※対象外
	合計		6.80	m2	6.8

6. 付 帯 工

付帯工数量集計表

【レベル2】 工種	【レベル3】 種　　別	【レベル4】 細　　別	【レベル5】 規　　格	単位	数　量	備　　考
付帯工						
	B-300　フリューム	フリューム	B-300	m	3.7	
		敷モルタル	1:3	m3	0.037	
		均しコンクリート	18-8-40	m3	0.104	
		同上型枠		m2	0.37	
		基礎材	RC-40	m2	2.072	

数　量　計　算　書

工種:付帯工

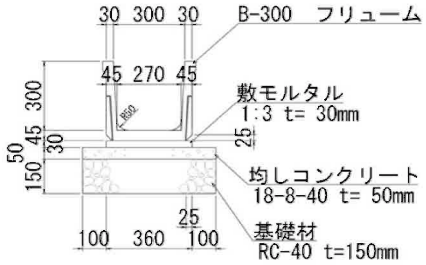
種別 : 付帯工

細目 規格	計　算　式	計　算 過程値	単位	数量
B-300 フリューム				
	L= 3.70		m	3.7
敷モルタル				
	V= 0.1/10×3.7		m3	0.037
均しコンクリート				
	V= 0.28/10×3.7		m3	0.104
同上型枠				
	A= 1/10×3.7		m2	0.370
基礎材				
	A= 5.6/10×3.7		m2	2.072

10m当たり単位数量計算書

工種：取水路復旧工
　種別：B-300　フリューム

略図



材　料　表

10m当たり

名　称	規　格	単位	数　量	備　考
排水フリューム	300x300x2000	個	5	参考質量： 190 kg
敷モルタル	1:3　　t= 30mm	m^3	0.11	
均しコンクリート	18-8-40　t= 50mm	m^3	0.28	
同上型枠		m^2	1.00	
基礎材	RC-40　　t=150mm	m^2	5.60	

細目 規格	計　　算　　式	計算過程値	単位	数量
B-300　フリューム				
排水フリューム				
	N= 5.0		個	5.0
敷モルタル				
	V= 0.1		m3	0.1
均しコンクリート				
	V= 0.28		m3	0.3
同上型枠				
	A= 1.00		m3	1.0
基礎材				
	A= 5.60		m2	5.6

7. 撤 去 工

撤去工数量集計表

【レベル2】 工種	【レベル3】 種　　別	【レベル4】 細　　別	【レベル5】 規　　格	単位	数　量	備　　考
撤去工						
	既設構造物撤去		コンクリート	m^3	173.3	

工種	既設構造物撤去　数量計算書																			
細別	単距離	撤去工																		備考
		既設構造物撤去																		
		断面積		体積																
		面積	平均																	
	(m)	(m^2)	(m^2)	(m^3)																
NO.1 ＋ 2.83		1.7																		
NO.1 ＋ 7.73	4.90	1.6	1.65	8.1																
NO.1 ＋ 7.73	0.00	18.7	10.15	0.0																
NO.1 ＋ 13.15	5.42	13.1	15.90	86.2																
NO.1 ＋ 20.11	6.96	3.9	8.50	59.2																
NO.1 ＋ 22.30	2.19	2.4	3.15	6.9																
NO.1 ＋ 22.30	0.00	1.4	0.00	0.0																
NO.1 ＋ 35.50	13.20	0.9	1.15	15.2																
		河床破損分控除																		
		12.7×0.20		2.5																
		B-300撤去分																		
		0.041×3.7		0.2																
合計	32.7			173.3																

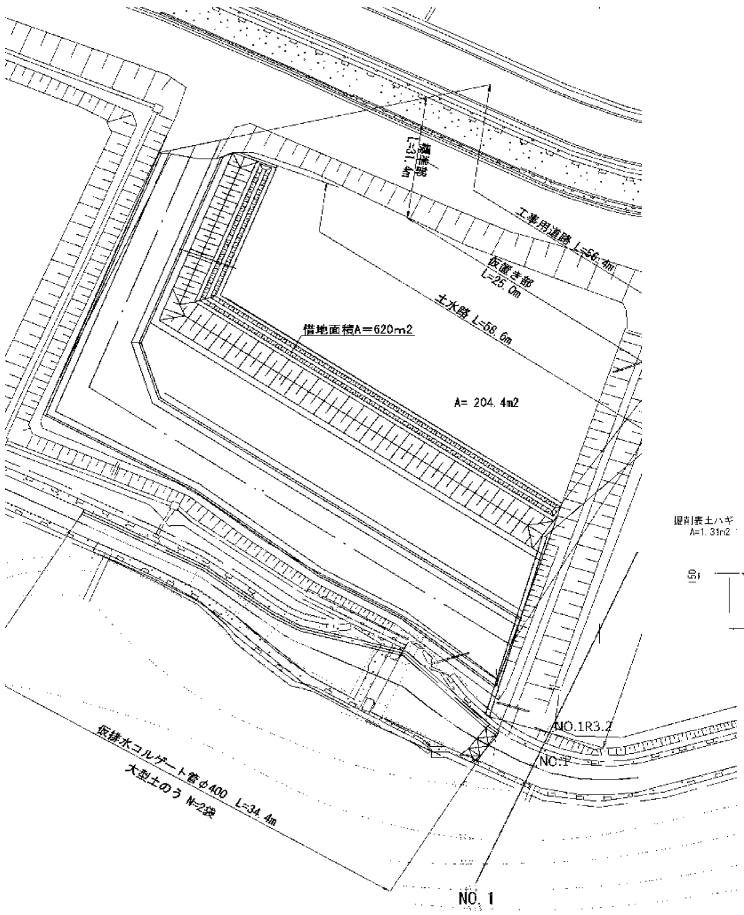
8. 仮　設　工

第1工区　数量集計表　仮設工

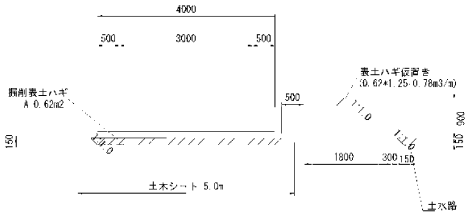
種別　：仮設工

細　別	規格・寸法	合　計	備　　考
工事用道路			
工事用道路盛土	盛土(4.0m≦B)	87　m3	
購入土		97　m3	盛土87/0.9+土のう0.6
養生シート	ナイロン織布シート　t=0.3～0.5mm	397　m2	
表土掘削・埋戻	t=150	342　m2	
仮水路工			
コルゲート管	φ400	34　m	
大型土のう	製作	2　袋	大型土のう2/1.2＝1.67m3
	設置	2　袋	
	撤去	2　袋	
土のう		0.6　m3	

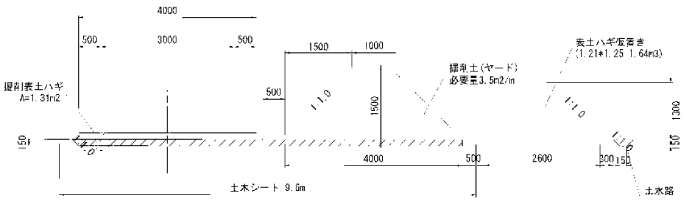
１工区仮設工　数量計算書



標準部　S=1/50



仮置き部　S=1/50



工　種	規　格	計　算　式	数　量	単位
工事用道路				
養生シート敷設	ナイロン織布シート t=0.3～0.5mm	標準部 5.00 × 道路延長 31.4 + 仮置き部 9.60 × 道路延長 25.0 = 397.00	397.0	m2
盛土	盛土(4.0m≦B)	標準部 1.24 × 道路延長 31.4 + 仮置き部 1.93 × 道路延長 25.0 = 87.19	87.2	m3
表土掘削・埋戻	t=150	標準部 4.00 × 道路延長 31.4 + 仮置き部 8.65 × 道路延長 25.0 = 341.85	341.9	m2
仮水路工				
コルゲート	φ400	34.40	34.4	m
大型土のう	製作		2	袋
	設置		2	袋
	撤去		2	袋
土のう	300*300	図面より 0.61 × 延長 1.00 =	0.6	m3

令和８年度

地域農業水利施設ストックマネジメント事業

大畑蔵谷地区用排水路改修工事（１）

仕　様　書

（共通仕様書
特記仕様書）

目　　次

土木工事共通仕様書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

農業農村整備事業共通仕書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2～15

特記仕様書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16～36

土木工事共通仕様書

第１条　適用

本工事は、農林水産省農村振興局編「土木工事共通仕様書」（最終改正）に準じるものとし、下記事項について読み替え施行するものとする。

（１）１－１－１　適用　１.「土木工事共通仕様書、施設機械工事等共通仕様書（以下「共通仕様書」という。）は農林水産省所管の国営土地改良事業、国営海岸保全事業及び国営地すべり対策事業に関する」とあるを「土木工事共通仕様書、施設機械工事等共通仕様書（以下「共通仕様書」という。）は、兵庫県の所管の農業農村整備事業、海岸保全事業及び地すべり対策事業に関する」と読み替える。

（２）１－１－１　適用　第２項を削除する。

（３）１－１－２　用語の定義　第 1 項「監督職員」を「監督員」と読み替える。

（４）１－１－３０　施工管理中、「土木工事施工管理基準(16 農振第 2232 号平成 17 年３月 28 日農村振興局長通知)」を「「土木工事施工管理基準(農整第 1226 号平成 27 年 4 月 1 日付け農地整備課長通知)」と読み替える。

（５）契約書についての各条項は、加東市の使用する契約書に対応する各条項に読み替えるものとする。

（６）提出書類の様式等については、農林水産省農村振興局編「土木工事共通仕様書」記載の様式を準用する。

農業農村整備事業共通仕様書

第１章　総則

第１条　（適用）

１．本仕様書は、加東市が施工する農業農村整備事業に関する工事に適用する。

２．本仕様書に記載された事項は、農林水産省農村振興局整備部設計課監修「土木工事共通仕様書」（発注時点最新版）及び「施設機械工事等共通仕様書」（発注時点最新版）に優先するものとする。

なお、共通仕様書の最新版については、以下の農林水産省 HP を参照すること。

http://www.maff.go.jp/j/nousin/seko/kyotu_siyosyo/

第２条　（建設副産物対策）

１．本条の対象は、建設リサイクル法第 9 条第 1 項に定める「対象建設工事」となる解体工事を含む場合とする。

２．建設資材廃棄物の産業廃棄物処分業者への引渡しが完了したときは、「産業廃棄物等の不適正な処理の防止に関する条例」（平成 15 年 3 月 17 日兵庫県条例第 23 号）第 16 条の 3 に基づき、建設資材廃棄物引渡完了報告を提出すること。

なお、神戸市、姫路市、尼崎市又は西宮市域での工事の場合は、県条例に代えて各市条例を適用する。

３．「再生資源利用計画」「再生資源利用促進計画」については、施工計画書に含めて提出すること。

また、再生資源等の利用・搬出が終了した際には、その実績を提出すること。

４．建設廃棄物を搬出する場合は、県登録施設への搬出を原則とする。もし県未登録施設での処理が必要となった場合は、以下の書類を作成・提出し、監督員の承諾を得ること。

・県未登録施設との打合せ記録簿
・産業廃棄物処分業許可証の写し
・施設概要の分かる書類
・建設副産物受入価格の見積書

第３条　（電子マニフェストの活用について）

１．土木工事共通仕様書１－１－２３条（又は施設機械工事等共通仕様書１－１－２４条）３項における廃棄物管理票（マニフェスト）については、可能な限り電子マニフェストの活用に努めるものとする。

第４条　（不正軽油の使用禁止）

１．受注者は、工事の施工にあたり、使用する車両及び建設機械の燃料として、不正軽油（地方税法第 144 条の 32（製造等の承認を受ける義務等）の規定に違反する燃料をいう。）を使用してはならない。

２．受注者は、不正軽油の使用が判明した場合には、速やかに是正措置を講じなければならない。

第５条　（過積載による違法運行の防止）

１．積載重量制限を超えて工事用資機材及び土砂等を積み込まず、また積み込ませないこと。

２．さし枠装着車、「土砂等を運搬する大型自動車による交通事故の防止等に関する特別措置法」（昭和 42 年法律第 131 号）（以下「ダンプ規制法」という。）の表示番号等の不表示車（以下「不表示車」という。）等に土砂等を積み込まず、また積み込ませないこと。

３．過積載を行っている資材納入業者から、資材を購入しないこと。

４．建設副産物の処理及び骨材等資材の購入等に当たっては、下請事業者及び骨材等納入業者の利益を不当に害することのないこと。

５．過積載車両、さし枠装着車、不表示車等から土砂等の引渡しを受ける等、過積載を助長することのないようにすること。

６．取引関係にある事業者が過積載を行っている場合又はさし枠装着車、不表示車等を運搬に使用しようとしている場合は、早急に不正状態を解消するよう適切な措置を講じること。

７．ダンプ規制法の主旨に沿って、同法第 12 条に規定する団体等の加入者を使用すること。

８．交通安全に関する配慮に欠ける者又は業務に関し運搬用車両等によって悪質かつ重大な事故を発生させた者を下請契約の相手方又は資材納入業者に選定しないこと。

９．下請け業者や資材納入業者に対して過積載防止や交通安全に関する教育・訓練等の安全対策を行うこと。

第６条（土砂等の搬出に係る過積載防止対策）

１．受注者は過積載防止対策について、「過積載防止対策要領」を遵守して取組まなければならない。

２．受注者は、建設機械、資材等の運搬にあたり、車両制限令第３条における一般的制限値を超える車両を通行させる時は、下記について提出し、監督員の確認を受けること。

（「過積載防止対策要領」第７条参照）

①施工計画書に一般制限値を超える車両を記載し提出すること。

②搬入時は現場到着時、搬出時は現場出発時の写真を提示すること。

（荷姿全景、ナンバープレート等通行許可証と照合可能な写真）

③通行許可証の写しの提示すること。

第７条（監督員による段階確認）

１.受注者は、別表-1 及び別表-2 段階確認一覧表に示す確認時において、段階確認を受けなければならない。

２．受注者は事前に段階確認に係わる報告（種別、細別、施工予定時期等）を所定の様式により監督員に提出しなければならない。また、監督員から段階確認の実施について通知があった場合には、受注者は段階確認を受けなければならない。

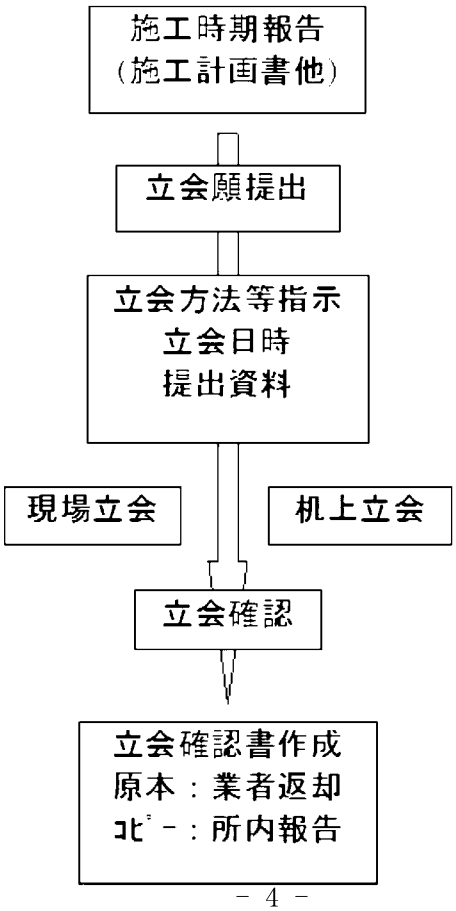
３．段階確認は受注者が臨場するものとし、確認した箇所に係わる監督員が押印した書面を、受注者は保管し検査時に提出しなければならない。

４．受注者は、監督員に完成時不可視になる施工箇所の調査ができるよう十分な機会を提供するものとする。

５．監督員は、設計図書に定められた段階確認において臨場を机上とすることができる。

この場合において、受注者は、施工管理記録、写真等の資料を整備し、監督員にこれらを掲示し確認を受けなければならない。

段階確認フロー



別表－1　段階確認一覧表

種類	細別	確認事項
指定仮設工		設置完了時
河川・海岸・砂防土工（掘削工） 道路土工（掘削工）		土（岩）質の変化した時
道路土工（路床盛土工） 舗装工（下層路盤）		ブルーフローリング実施時
表層安定処理工	表層混合処理・路床安定処理	処理完了時
	置換	掘削完了時
	サンドマット	処理完了時
バーチカルドレーン工	ｻﾝﾄﾞﾄﾞﾚｰﾝ	施工時 施工完了時
	袋詰式サンドドレーン	
	ペーパードレーン	
締固め改良工	サンドコンパンクションパイル	施工時 施工完了時
固結工	粉体噴射撹拌 高圧噴射撹拌 セメントミルク撹拌 生石灰パイル	施工時 施工完了時
	薬液注入	施工時
矢板工 （任意仮設を除く）	鋼矢板 鋼管矢板	打込時 打込完了時
既製杭工	既製コンクリート杭 鋼管杭 H鋼杭	打込時 打込完了時（打込杭） 掘削完了時（中掘杭） 施工完了時（中掘杭） 杭頭処理　完了時
場所打杭工	リバース杭 オールケーシング杭 アースドリル杭 大口径	掘削完了時 鉄筋組立て完了時 施工完了時 杭頭処理完了時
オープンケーソン基礎工 ニューマチックケーソン基礎工		鉄沓据え付け完了時 本体設置前（オープンケーソン） 掘削完了時（ニューマチック ケーソン） 土（岩）質の変化した時 鉄筋組み立て完了時
鋼管井筒基礎工		打込時 打込完了時 杭頭処理完了時

別表－2

段階確認一覧表（農業農村整備事業関係）

種別	細別	確認時期
ほ場整備	整地工	基盤均平完了時 表土均平完了時
	管水路工	漏水試験時 水圧試験時
ため池	準備工	境界立会時、法線設置完了時
	堤体工	床掘完了時(床付･岩着) 土（岩）質の変化した時 盛土開始時
	洪水吐工	土(岩)質の変化した時 床堀掘削完了時 鉄筋組立て完了時 埋戻し前
	樋管工	床堀掘削完了時 鉄筋組立て完了時 埋戻し前
	土取場工	境界立会時 土質判定時
地すべり （抑止工）	抑止杭工 （鋼管杭工）	法線設置完了時 材料検査時 鋼管建て込み完了時

種別	細別	確認時期
オープンケーソン基礎工 ニューマチックケーソン基礎工		コンクリート打設前
重要構造物 函渠工（樋門・樋管を含む）、洪水吐工 躯体工（橋台）、ＲＣ躯体工（橋脚） 橋脚フーチング工、ＲＣ擁壁 砂防ダム・床止・床固、堰本体工 排水機場本体工、水門工、共同溝本体工		コンクリート打設前
床版工		コンクリート打設前
ポストテンションＴ(Ｉ)桁製作工 プレビーム桁製作工 ＰＣホロースラブ製作工 ＰＣ版桁製作工、ＰＣ箱桁製作工 ＰＣ片持箱桁製作工、ＰＣ押出箱桁製作工		コンクリート打設前 （工場製作を除く）
トンネル工		施工前、スライドセントル設置時
盛土工 道路・河川・砂防		敷均し、転圧時
舗装工	路盤、表層、基層	舗設前
コンクリート吹付工		吹付前 その他監督員が指示する時
維持・管理工	施肥、薬剤散布	施工時
開削工（農業集落排水・下水道）		施工前
推進工（農業集落排水・下水道）		施工前、裏込注入時
シールド工 （農業集落排水・下水道）	一次覆工、二次覆工	裏込注入前 コンクリート打設前
立坑工		施工時

なお、下記の簡易構造物には適用しないものとする。

① 張コンクリート・捨コンクリート等（河川の護岸は除く）

② コンクリート断面積１㎡以下の水路・側溝等

③ コンクリート量１m3以下の防護柵・照明・標識等の基礎

④ 高さ１m以下の擁壁（河川の護岸は除く）

⑤ 集水桝･分水桝（ただし、コンクリート断面積１㎡以上、高さ1m以上のものを除く

第８条　（電子納品）

１．電子納品とは、調査、設計、工事などの各業務段階の最終成果を電子データで納品することをいう。
ここでいう電子データとは、農林水産省で策定した「工事完成図書の電子納品等要領（案)」等及び兵庫県農林水産部が策定した「工事完成図書の電子納品に関する運用指針（案)」(以下、両者を総称して「要領」という。）に示されたファイルフォーマットに基づいて作成されたものを指す。

２．工事完成図書は「要領」に基づいて作成した電子データを電子媒体で正副２部提出するほか、下記については紙媒体で提出するものとする。「要領」で特に記載が無い項目については、監督員と協議の上、電子化の要否を決定する。

（１）施工計画書、完成図書、出来高展開図の出力　　１部
（市販のファイル綴じで可）

（２）協議の結果、電子納品対象外となった完成図書　１部

３．工事写真は農林水産省が策定した「電子化写真データの作成要領（案)」及び兵庫県農林水産部が策定した「工事完成図書の電子納品に関する運用方針（案)」に基づいて提出するものとする。

４．共通仕様書１－１－２９に基づく工事完成図の作成にあたっては、農林水産省が策定した「電子化図面データ作成要領（案)」及び兵庫県が策定した「工事完成図書の電子納品に関する運用方針（案)」に準拠して作成しなければならない。

第２章　材料

第１条　（建設資材、物品等の調達）

１．本工事に使用する全ての建設資材については、県内産品を原則使用する。ただし、工事請負代金額が 250 万円未満の工事、緊急的に実施する工事は対象外とする。

県内産品の調達が困難な場合は、県内に本店や営業所等を有する取扱業者から直接調達を図ることとし、それでもなお、やむを得ない理由があり、これにより難い場合は、使用する資材について監督員に「県内産品未使用理由書」（別表１）を提出し、監督員の承諾を得ることとする。

※ 県内産品の定義・・県内で産出、生産、加工又は製造（県内工場）された建設資材

２．工事着手前に受注者が提出する「使用材料一覧表」の様式は別表２とする。

（別表１）

県内産品未使用理由書

一覧表 No.	使用する材料の名称	材料の規格等	未使用の理由記号 ※１	附属資料の名称	具体的な理由　※２

※１　未使用理由
　ア　県内の本店又は営業所等を有する者から調達できない場合
　イ　受注者により提出される「県内に本店又は営業所等を有する取扱業者の県内産品納入価格」と「設計単価」との価格差が大きい場合
　ウ　その他
※２　未使用理由「ウ」に該当する場合のみ記入

（別表２）

使用材料一覧表

No.	使用する材料の名称	材料の規格等	材料の JI 規格の有無（有りの場合○）	工場の JIS 表示認定（認証）の有無（有りの場合○及び番号）	主要資材（該当する場合○）	県内産品（使用の場合○）	製造会社名又は工場名所在地（又は土取場名）	使用材料確認願を提出の場合○	土木工事承諾書を提出の場合○	県内本店等(使用の場合○) ※１	購入社名、所在地 ※２	県内産品未使用の場合○ ※３

※１　県内産品の調達が困難な場合で、県内に本店や営業所等を有する取扱業者から調達した場合に記入する。
※２　材料の納入業者名が、製造会社名と異なる場合に記入する。
※３　県内産品を使用せず、かつ県内に本店や営業所等を有する取扱業者から調達していない場合は、「県内産品未使

用理由書（別表１）」の添付が必要。
注１）契約金額が 250 万円未満の工事及び緊急的に実施する工事、総価契約単価取決方式工事は「主要資材」「県内産品」「県内本店」「購入社名、所在地」「県内産品未使用の場合」欄の記入は不要。
注２）受注者は、工事完成時に「使用材料一覧表（別表２）」として提出した全ての電子データを監督員に提出する。

第２条　（セメントコンクリート二次製品の取扱要領の適用について）

１．セメントコンクリート二次製品の品質確認は、下記ホームページアドレスに掲載する「セメントコンクリート二次製品の取扱要領」に基づき実施する。

http://web.pref.hyogo.jp.cache.yimg.jp/ks04/gijyutsukannri.html

第３章　施工共通事項

第１条　（レディーミクストコンクリート）

本条は、レディーミクストコンクリートの製造に関する一般事項を取り扱うものとする。なお、本条に規定していない製造に関する事項は、JIS A 5308（レディーミクストコンクリート）を適用する。

１．受注者は、レディーミクストコンクリートを用いる場合の工場選定は以下による。

（１）ＪＩＳマーク表示認定製品を製造している工場（産業標準化法の一部を改正する法律（平成 30 年 5 月 30 日公布 法律第 33 号）に基づき国に登録された民間の第三者機関（登録認証機関）により製品に JIS マークを表示する認証を受けた製品を製造している工場（以下「JIS 認証工場」という。））で、かつ、コンクリートの製造、施工、試験、検査及び管理等の技術的業務を実施する能力のある技術者（コンクリート主任技師等）が常駐※しており、配合設計及び品質管理などを適切に実施できる工場（(全国生コンクリート品質管理監査会議の策定した統一監査基準に基づく監査に合格した工場)（以下、「監査合格工場」という。）等）から選定しなければならない。

（２）JIS 認証工場が工事現場近くに見当たらない場合は、使用する工場について、設計図書に指定したコンクリートの品質が得られることを確かめたうえ、その資料により監督員の確認を得なければならない。

なお、コンクリートの製造、施工、試験、検査及び管理などの技術的業務を実施する能力のある技術者（コンクリート主任技士等）が常駐しており、配合設計及び品質管理等を適正に実施できる工場を選定しなければならない。

※受注者は、技術者（コンクリート主任技士等）の資格証（登録者証も可）及び同技術者が所属工場と直接的かつ恒常的な雇用関係にあることを確認できる書面により、常駐の確認をしなければならない。なお、監査合格工場は、これを省略することができる。

２．受注者は、１の（１）により選定した工場が製造したJISマーク表示されたレディーミクストコンクリートを用いる場合は、工場が発行するレディーミクストコンクリート配合計画書及びレディーミクストコンクリート納入書を整備及び保管し、監督員または検査員からの請求があった場合は、速やかに提示しなければならない。

なお、１の（１）により選定した工場が製造するJISマーク表示のされないレディーミクストコンクリートを用いる場合は、受注者は、配合試験に臨場し品質を確認するとともにレディーミクストコンクリート配合計画書及び基礎資料、レディーミクストコンクリート納入書またはバッチごとの計量記録を整備及び保管し、監督員または検査員からの請求があった場合は速やかに提示しなければならない。

３．受注者は、１の（２）に該当する工場が製造するレディーミクストコンクリートを用いる場合は、設計図書及び材料の計量及び練混ぜの規定（県土木部土木工事共通仕様書の第1-3-5-4）によるものとし、配合試験に臨場するとともにレディーミクストコンクリート配合計画書及び基礎資料を確認のうえ、使用するまでに監督員へ提出しなければならない。また、バッチごとの計量記録やレディーミクストコンクリート納入書などの品質を確認、証明できる資料を整備及び保管し、監督員または検査員からの請求があった場合は速やかに提示しなければならない。

４．受注者は、レディーミクストコンクリートの打設に関し、表１の練混ぜから打設完了までに要した時間の確認ができる記録資料（以下、「打設状況報告書」という。）を作成・整備・保管し、監督員の請求があった場合は、遅滞なく提示するとともに、検査時に提出しなければならない。

５．監査合格工場で製造されたJISA5308に適合するレディーミクストコンクリートについては、必要に応じて配合に臨場するとともに、製造会社の材料試験結果、レディーミクストコンクリート配合計画書及び基礎資料を整備・保管し、監督員の請求があった場合は、遅滞なく提示するとともに、検査時に提出しなければならない。

なお、受注者による臨場、確認等については、表１のとおりとする。

６．受注者は、JIS 認証工場以外の工場で製造したレディーミクストコンクリートを用いる場合、JIS認証工場であってもJISA5308以外のレディーミクストコンクリートを用いる場合、JIS認証工場であるが監査合格工

場以外の工場で製造したJISA5308を用いる場合には、必要に応じて配合に臨場し、また、製造会社の材料試験結果、レディーミクストコンクリート配合計画書及び基礎資料により、監督員の確認を得なければならない。

また、受注者は、レディーミクストコンクリートの打設時には、必要に応じて当該工事の主任技術者又は監理技術者か、コンクリート主任技士又はコンクリート技士の資格を有する技術者を立会させなければならない。

なお、受注者による臨場、確認等については、表１のとおりとする。

７．受注者は、レディーミクストコンクリートの打設に関し、表３の練混ぜから打設完了までに要した時間の確認ができる記録資料（以下、「打設状況報告書」という。）を作成・整備・保管し、監督員の請求があった場合は、遅滞なく提示するとともに、検査時に提出しなければならない。

８．受注者は、レディーミクストコンクリートの品質を確かめるための検査をJIS A 5308により実施しなければならない。なお製造会社等に検査のための試験を代行させる場合は、受注者がその試験に臨場しなければならない。また現場練りコンクリートについても、これに準ずるものとする。

９．受注者は、施工に先立ち、あらかじめ配合試験を行い、表２の示方配合表を作成し監督員の確認を得なければならない。ただし、すでに他工事（公共工事に限る）において使用実績があり、品質管理データがある場合は、配合試験を行わず他工事（公共工事に限る）の配合表に代えることができる。

また、JISマーク表示されたレディーミクストコンクリートを使用する場合は配合試験を省略できる。

１０．受注者は、土木コンクリート構造物の耐久性を向上させるため、一般の環境条件の場合のコンクリート構造物に使用するコンクリートの水セメント比は、鉄筋コンクリートについては55パーセント以下、無筋コンクリートについては60%以下とする。

表１　配合に臨場する場合の頻度等　　（土木工事）

		受注者の臨場、確認等の時期	コンクリート構造物の分類(表２参照)	監査合格工場の JIS（A５３０８）製品	監査合格工場以外の JIS（A５３０８）製品	JIS（A５３０８）以外の製品
製造関係	①品質管理に携わる技術者の資格の確認(常駐の確認)	材料承認提出時	A 欄、B 欄とも	－	○	○*2
	②品質管理責任者の配置の確認	材料承認提出時	A 欄、B 欄とも	－	○	－
	③コンクリートの圧縮強度の管理体制の確認	材料承諾提出時	A 欄、B 欄とも	－	○	○*2
	④配合への臨場	試験練りを行う場合には試験練り時	A 欄に該当	○	○	○
			B 欄に該当	－	○	○
		打設時	A 欄に該当	－	－	○*1
			B 欄に該当	－	－	○*1
	⑤単位水量にかかる日常管理に関する事項の確認	打設期間中	A 欄に該当	－	○	○
			B 欄に該当	－	○	○
施工関係	⑥有資格者等の臨場	打設時	A 欄に該当	－	○	○
			B 欄に該当	－	－	－
	⑦打設状況報告書(表 3)の作成等	打設時	A 欄、B 欄とも	○	○	○

＊１：臨場の頻度は、鉄筋コンクリートは打設日１日につき２回（午前、午後）とし、その他のコンクリートは打設１日につき１回とする。

＊２：監査合格工場は除く。

①品質管理に携わる技術者の資格確認（常駐の確認）

コンクリート技士、コンクリート主任技士又は同等の有資格者が、１名以上常駐し実際に品質管理に携わっていること。なお、同等の資格とは、技術士（コンクリート専門)、コンクリート診断士に限る。

②品質管理責任者の配置の確認

品質管理責任者（ＱＭＲ）として有資格者を JIS 登録認証機関に届け出て配置するとともに、ＱＭＲの資格を有する者の中から代理人１名を選定していること。

③コンクリートの圧縮強度の管理体制の確認

代表的な配合を選択し、JISA5308 の 9.2 に基づく方法、JISA1132 の方法によってあらかじめ定めた間隔で強度を検査し、その管理を行っていること。ただし、代表的な配合がない場合には、任意の配合について行っていること。

（ア） あらかじめ間隔（１回／日以上）定めていること

（イ） 検査記録が３ヶ月分残されていること

（ウ） 適合性を確認していること

（エ） 恒温養生水槽中の供試体数が記録と整合していること（検査前１ヶ月）

④単位水量にかかる日常管理に関する事項の確認

打設期間中の確認については、「レディーミクストコンクリート単位水量測定要領（案）平 24 年４月　兵庫県」によることとする。

表2 示方配合表

粗骨材の最大寸法(mm)	スランプ (cm)	水セメント比 W/C(%)	空気量 (%)	細骨材率 S/a(%)	単位量 (kg/m³)					
					水 W	セメント C	混和材 F	細骨材 S	粗骨材 G	混和材 A

表1　　打設状況報告書　（土木工事）

レディーミクストコンクリート（○○－○－○○　××）

打設日　　年　月　日
打設箇所
天候

No. （台数）	打設量 (m^3)	累計打設量 (m^3)	目視	スランプ (cm)	空気量 (%)	生コン温度 (℃)	外気温 (℃)	塩分 (kg／m3)	出荷時刻	打設開始時刻	打設完了時刻	出荷から打設完了までの経過時間	運搬車番号	摘要
備考、特記すべき事項　等														

注1：表中の薄アミの部分は、現場において実測した場合に記載のこと。
注2：当　表3の作成は、原則として打設日当日に行うこと。

第２条　（コンクリート打継面処理剤の取扱い）

コンクリート構造物の打継目については、土木工事共通仕様書のとおり打継目処理を行うものとし、レイタンス処理が不要とされるコンクリート打継面処理剤は原則使用しないこと。

ただし、レイタンス処理液の配水が困難な現場条件など、やむを得ないと認められる場合は、監督員と協議し、構造物に求める性能が確保されることを確認の上、打継目処理剤を使用できるものとする。

特記仕様書

第１章　総則

第１節　総則

第１条　適用の範囲

１．本仕様書は、加東市が発注する「令和８年度　地域農業水利施設ストックマネジメント事業　大畑蔵谷地区用排水路改修工事（１）」（以下「工事」という。）に適用する。

２．本工事は土木工事等共通仕様書、特記仕様書、土木工事施工管理基準、その他設計図書等に基づいて誠実に履行しなければならない。

３．特記仕様書、農業農村整備事業共通仕様書、設計図書等に記載された事項は土木工事等共通仕様書に優先するものとする。

第２条　準拠図書及び基準

適用規格、準拠基準等は、共通仕様書の 1-1-41 に示す諸法令、諸法規の定めによるほか下記の基準・図書に準拠して施工するものとする。

①	兵庫県土地改良技術基準	（兵庫県）
②	農林水産土木工事安全施工技術指針	（兵庫県）
③	土地改良事業計画設計基準	（農林水産省）
④	土地改良事業標準設計	（農林水産省）
⑤	土木工事施工管理基準	（農林水産省）
⑥	日本工業規格	（ＪＩＳ）
⑦	労働安全衛生規則	（厚生労働省）
⑧	コンクリート標準示方書	（土木学会）
⑨	その他関係法令・規則・規格	

第２節　工事内容

第１条　目的

１．この工事は地域農業水利施設ストックマネジメント事業を活用し、老朽化が進行し危険な状態となった用排水路を従来の機能に回復するため改修を行い、損壊による下流域の営農への支障を防止するものである。

第２条　工事場所

加東市　大畑　地内

第３条　工期

契約締結日の翌日　～　令和９年３月２６日

第４条　充足義務

本仕様書、図面および説明事項に明記していない事項であっても、構造上、製作上あるいは輸送上具備しなければならない必要事項は、受注者の負担においてこれを充足するものとする。

第５条　竣工

工事終了後、発注者が行う検査の合格をもって、本工事の竣工とする。

第２章　施　　工

第１節　施 工 一 般

第１条　一 般 心 得

１．受注者が受益者・周辺住民から要望、指摘等を受けた場合は、速やかに監督員に報告し指示を受けるものとし、単独処理をしてはならない。

２．受注者は工事施工中、監督員と密に連絡を行い、周辺住民に迷惑をかけないように細心の注意を払い、重機等による事故を絶対に起こさないように注意しなければならない。

３．労働基準監督署の指導等に十分配慮し安全対策に努めなければならない。

第２条　実施工程表

１．受注者は、共通仕様書に示す様式に基づき実施工程表を作成し監督員に提出して承諾を受けなければならない。

２．本工事の工期は、雨天、祝祭日、年末年始休暇及び土・日曜休日を見込んでいる。ただし、騒音規制法、振動規制法その他諸法令の許可の範囲内でやむを得ず休日に作業を行う必要がある場合は、監督員に届け出るものとする。ただし、夜間工事は行わないこととする。

３．天候や地域住民対応等で業務計画書に記載のある祝日に施工が必要となった場合は、監督員と協議のうえ、休日作業届を提出すること。

４．現行の実施工程表に変更が生じその内容が重要な場合には、その都度変更実施工程表を提出しなければならない。

５．実施工程表について監督員が特に指示した場合は、さらに細部の実施工程表を提出しなければならない。

６．翌週の工程表を週の最終営業日午前中までに、また月の最終営業日に当月の進捗報告を監督員へ提出すること。

第３条　関係機関との調整（官公庁署）

１．受注者は、共通仕様書１－１－４８に基づき、必要な手続きについて所定の期日までに行わなければならない。手続きを経て許可・承諾等を得たときは、その写しを添えて速やかに監督員に報告しなければならない。

第４条　基　準　点

１．この工事の水準点については監督員から貸与する測量資料をもとに確認しておくこと。

第５条　準　備

１．工事着手前に、関係者（周辺住民、地権者など）へ工事の実施にかかる必要事項等の連絡を行うこと。

２．労務及び作業用機械器具類は工程を十分検討の上、工期内に工事実施の可能な能力のあるものを準備し、特に作業機械は常に点検整備を行い、故障等により工事に支障をきたすことのないように十分留意すること。

３．契約後すみやかに共通仕様書１－１－４２、４３に必要な手続きを行うと共に使用材料及び使用建設機械については施工計画書及び使用承認願を提出し、監督員の承認を得なければならない。

４．監督員の承認を得た後、測量及び機械施工のできる状態にした上で、事前測量により現地高さを確認し、丁張をかけて設計図書との整合及び用地等について監督員の確認を受けなければならない。

５．地下埋設物や架空線（電柱、電線等）について工事の際、危険のないように十分な調査を行うこと。工事に支障となる場合は監督員と協議すること。

第６条　安全対策

１．工事開始前及び開始時において、地域住民等の意見を踏まえた危険箇所の特定と適正な安全施設（立入防止施設、注意看板等各種標識類）を設置するものとする。

２．地元説明会等で地域住民への危険箇所の周知と事故防止の徹底を図らなければならない。

３．必要に応じ安全対策マップを作成し、地域住民等への配布を行うもの

とする。

４．工事完了後の危険箇所については十分な安全対策を講じること。

第７条　排出ガス対策

１．本工事において下表に示す建設機械を使用する場合は、排ガス対策型建設機械指定要領に基づき指定された排ガス対策型建設機械を使用するものとする。なお、排ガス対策型建設機械を使用できない場合は、「建設技術評価制度」又は「民間開発建設技術の審査証明事業」により評価された「排出ガス浄化装置」を装着した建設機械を使用することで同等とみなすものとする。ただし、これにより難い場合は、相当の理由を付して監督員へ申し出るものとする。

２．工事で使用する建設機械は、排ガス対策型建設機械か否かを施工計画書に記載するものとする。

３．排出ガス対策型建設機械は、施工現場において、使用する建設機械の写真撮影を行い、完成図書として提出するものとする。

４．受注者は建設機械を使用するにあたり、アイドリングストップの励行に努めなければならない。

＜表＞

一般工事用建設機械	備考
・ バックホウ ・ ブルドーザ ・ 発動発電機（可搬式） ・ 空気圧縮機（可搬式） ・ 油圧ユニット （以下に示す基礎工事用機械のうち、ベースマシーンとは別に、独立したディーゼルエンジン駆動の油圧ユニットを搭載しているもの：油圧ハンマ、バイブロハンマ、油圧式鋼管圧入引抜機、油圧式杭圧入引抜機、アースオーガ、オールケーシング掘削機、リバースサーキュレーションドリル、アースドリル、地下連続壁施工機、全回転オールケーシング施工機） ・ ロードローラ、タイヤローラ、振動ローラ ・ ホイールクレーン	ディーゼルエンジン（エンジン出力7.5kw　～260kw）を搭載した建設機械に限る。

バックホウのバケットを盛土面に叩きつけて転圧を行うなど、通常とは異なる機械の使用方法によって、騒音・振動を生じさせては

ならない。

第８条　濁水処理対策

１．受注者は、生コンクリート・モルタル・砕石その他の工事材料や燃料・油脂等について、下流に流出させてはならない。

２．豪雨等が予想される場合は、あらかじめ工事材料の養生を行うとともに、仮設水路の設置等を行い、これらの流出を防ぐよう努めなければならない。

第９条　防塵対策

１．工事用道路及び仮設道路においては、車両走行により粉塵が極力発生しないよう細心の注意を持って施工するものとするが、天候等により土埃が飛散する状況であれば散水を行わなければならない。

２．タイヤに付着した土砂の一般道路への持ち出しを防止するため、圧力ポンプ等を配置するなどして適宜洗浄しなければならない。

３．万一公道上に土砂を持ち出した場合は、受注者の責任により速やかに清掃及び散水を行わなければならない。

４．受注者は、工事施工中のみならず工事資材の一時保管時においても、強風等により保管資材から粉塵が拡散しないよう、配慮しなければならない。

第１０条　交通安全管理等

１．過積載防止に取り組んだ記録を必ずとり、監督員に確認を受けること。

２．貨物自動車の定められた積載量を厳守し、さし枠装着車等不正行為のある車両での搬入及び運搬作業は絶対にしないこと。

３．見通しの利かない地点にはカーブミラー等を設置し、交通災害の発生防止に万全の措置を講じなければならない。

４．運搬作業に先立ち、次の事項について記載した運搬作業計画を、施工計画書に別添で添付し監督員に提出しなければならない。

①　交通安全担当者の職氏名

②　運搬経路

③　運搬作業の方法

④　安全施設標識等の設置場所とその内容及び交通安全指導員の配置場所

５．通行時には一般交通の妨げにならないよう留意すると共に、安全対策

をしなければならない。

第１１条　コンクリート工

１．一般事項

（１）コンクリート工事は、土木工事共通仕様書第３章第７節によるほか、土木学会編コンクリート標準示方書に準拠して施工するものとする。

（２）なお、土木工事共通仕様書第３章３－７－２レディーミクストコンクリートについては、第６章第１節第１条６の規定によるものとする。

２．スペーサの材質

使用するスペーサの材質は土木工事共通仕様書第３章３－９－２によることとし、現場での使用に先立ち、監督員により使用材料の承諾を受けるものとする。

３．型枠材にかかる自然保護への取り組み

熱帯雨林保全に資するため、本工事に使用するコンクリート型枠について、鋼材型枠等の使用に努めるとともに、コンクリート型枠合板に、針葉樹の複合合板を積極的に使用すること。また、合板の合理的使用などにより反復使用回数の増加に努めること。

４．型枠検査

（１）型枠組立が完了した後、コンクリート打設前に監督員の承認を受けること。

（２）写真管理はリボンテープ、マグネット、クリップ、デジタルノギス等を使用し配筋、型枠組立状況が写真でも確認できるよう工夫すること。

第１２条　施工管理

１．工事完了後外面から明視できない箇所及び重要な工事部分については、寸法及び施工状況が判定出来るよう充分留意して写真撮影をし、工程順に整理して監督員に提出し、承諾を得なければならない。

第１３条　監督員による検査（確認を含む）及び立会等

１．受注者は設計図書に従って、工事の施工について監督員の立会にあたってはあらかじめ別添様式に定める立会願を前日正午までに監督員に提出しなければならない。なお、急を要する場合はこの限りではない。

２．監督員は、工事が契約図書どおりにおこなわれているかどうかの確認

をするため必要に応じ、工事現場、又は製作工場に立ち入り、立会し、又は資料の提出を請求できるものとし、受注者はこれに協力しなければならない。

３．受注者は、監督員による検査（確認を含む）及び立会に必要な準備、人員及び資機材等の提供並びに写真その他資料の整備をするものとする。

４．監督員による検査（確認を含む）及び立会の時間は、監督員の執務時間内とする。ただし、やむを得ない理由があると監督員が認めた場合はこの限りではない。

５．受注者は、契約書第９条第２項第３号、第１３条第２項又は第１４条第１項もしくは同条第２項の規定に基づき、監督員の立会を受け、材料検査（確認を含む）に合格した場合にあっても、契約書第１７条、及び第３１条に規定する義務を免れないものとする。

第2節　仮　設　工

第１条　工事用道路

１．運搬道路は公共上または工事資材運搬上支障のないようにしなければならない。

２．資機材の運搬は公衆に迷惑の及ばないよう保安設備関係法規を遵守し、監督員の承諾により受注者の責任のもとに実施しなければならない。
なお、近隣住民や児童生徒の通勤・通学に大きな影響があるため、すみやかに運搬計画、交通誘導員配置計画、及び保安設備計画書を監督員に提出しなければならない。

３．受注者が重機、資材等の運搬の際、道路の路面等を損傷または汚した場合には受注者の責任によりこれを復旧・清掃する。

第２条　工事用仮設道路

１．受注者が任意により仮設道路を設置する場合は、労働基準法、その他関係法規に基づくものでなければならない。工事完了後は、すみやかに撤去し現況復旧を行うこと。

２．発注者が指示する以外に施工に際して使用した土地は、本工事完了後、所有者立会の上すみやかに引渡さなければならない。

第３条　防塵対策工

１．車両運行により粉塵が極力発生しないよう土埃が飛散する状況であれば一日に３回以上場内の散水を行わなければならない。

２．タイヤに付着した土砂の一般道路への持ち出しを防止するため、圧力ポンプ等を配置し、適宜洗浄し、場外へ出なければならない。
３．万一公道上に土砂を持ち出した場合は、受注者の責任により速やかに清掃及び散水を行わなければならない。

第４条　工事用電力
１．今回の工事においては、仮設電力設備（低圧引込設備）の設置は予定していない。受注者の都合により仮設電力設備を設置する場合は、受注者の責任において関係者協議等を行うこと。

第３章　品質管理及び施工管理

第１節　品質管理及び施工管理

第１条　一般心得
１．受注者は本仕様書に基づいて、次条に示す管理対象項目について管理試験を行い、その結果を監督員に報告すると共に記録管理しなければならない。
２．主任技術者又は監理技術者は、共通仕様書第１編１－１－10 に規定する２）若しくは（３）の資格を有するもの、又は建設業法第７条第２号イ若しくはロに該当するもののうち、ため池工事について経験と専門的知識を有するものでなければならない。
３．工事完了後外面から明視できない箇所及びまた重要な工事部分については、寸法及び施工状況が判定出来るよう充分留意して写真撮影をし、工程順に整理して監督員に提出し、承諾を得なければならない。
４．本工事完了後は、次の工事着手まで湛水する予定であるが、漏水等の問題が発生した場合は、必要な対策を請負者の責任において行うこと。

第２条　工事施工に関する管理対象項目
１．工程管理
２．品質管理
（１）コンクリート二次製品の品質管理資料
（２）コンクリートの品質管理資料
（３）その他監督が必要と認め要求する品質管理資料

３．出来形管理
（１）直接測定による出来形管理資料

（出来形のばらつきを確認するため、度数表又は、ヒストグラムを作成すること。試験結果打点数が１０以下の場合は省略））

（２）撮影記録による出来形管理資料

（３）他監督員が必要と認め要求する出来形管理資料）

第４章　その他

第１節　リサイクルの推進及び建設廃棄物の取り扱い

第１条　建設副産物対策

１．本工事は「建設工事に係る資材の再資源化に関する法律（建設リサイクル法）（平成１２年法律１０４号）に基づき、特定建設資材の分別解体等及び再資源化等の実施について適正な措置を講じることにより、「兵庫県における建設リサイクル行動計画」（平成１０年６月策定）の推進を図る。

２．「資源の有効な利用の促進に関する法律（改正リサイクル法）」（平成３年法律４８号、改題平成１２年法律１１３号）に基づき、工事着手前に共通仕様書第１－１－２２条第５項に記載しているとおり別に定める様式により「再生資源利用[促進]計画書」（別添１）を作成し監督員に提出しなければならない。

３．受注者は、工事完了後に「再生資源利用[促進]実施書」を作成し発注者への提出及び１年間の保管を行わなければならない。建設リサイクル法第１８条に基づく特定建設資材の分別解体等及び再資源化等の完了報告はこれを兼ねるものとする。

４．建設副産物の処分地については、県指定の処分地とする。なお、本設計では、下記の処分地を計上しているが、処分地を指定するものではない。

品　目	会　社　名	住　　所
Co 殻 （無筋）	（株）西畑土建	小野市船木町 875-132 他
土砂 （粘性土）	法光寺農事組合法人	三木市吉川町法光寺 230

５.対象とする品目

	建設資材・建設副産物
搬入	土砂、砕石、加熱アスファルト混合物の新材及び再生資材、その他の再生資材（再生コンクリート、パーティクルボード等の再生２次製品）
搬出	建設発生土、コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、建設発生木材、建設汚泥、建設混合廃棄物、金属くず、廃プラスティック、紙くず、アスベスト（飛散性）

第２条　産業廃棄物等の取り扱い

１．建設副産物の処理及び骨材等資材の購入に当たっては、下請事業者及び骨材等納入業者の利益を不当に害することのないよう留意すること。

２.建設工事により伐採された樹木は産業廃棄物に該当するので特に注意すること。

（別添１）

建設副産物実態調査搬出先調査票　－再生資源利用［促進］計画書（実施書）

公共工事・民間公益企業発注工事［元請会社用］

建設副産物対策近畿地方連絡協議会

（別添２）

産業廃棄物管理票交付状況総括表				
工事番号		工事名		
請負者名		工事場所		
廃棄物の種類	管理票の番号	数量（トン）	運搬受託者の名称	処分受託者の名称

第３条　再生資源等の利用

１．現場発生材のうち、石材、二次製品水路、既製品桝については、現場再利用を検討するため、撤去作業時においては監督員と協議を行うこと。

第４条　特定建設資材の分別解体等

１．本工事は、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律〔（平成１２

年法律第１０４号)。以下「建設リサイクル法」という。〕に基づき、特定建設資材の分別解体等及び再資源化等の実施について適正な措置を講ずることとする。

なお、本工事における特定建設資材の分別解体等・再資源化等については、以下の積算条件を設定しているが、工事請負契約書の「解体工事に要する費用等に関する書面」に定める事項は契約締結時に発注者と請負者の間で確認されるものであるため、発注者が積算上条件明示した以下の事項と別の方法であった場合でも変更の対象としない。

ただし、工事発注後明らかになった事情により、予定した条件により難い場合は、監督員と協議することとする。

工程ごとの作業内容及び解体方法	工　　程	作 業 内 容	分別解体等の方法
	① 仮　設	仮設工事 ■有　　□無	□　手作業 ■　手作業・機械作業の併用
	② 土　工	土工事 ■有　　□無	□　手作業 ■　手作業・機械作業の併用
	③ 基　礎	基礎工事 □有　　■無	□　手作業 □　手作業・機械作業の併用
	④ 本体構造	本体構造の工事 ■有　　□無	□　手作業 ■　手作業・機械作業の併用
	⑤ 本体付属品	本体付属品の工事 ■有　　□無	□　手作業 ■　手作業・機械作業の併用
	⑥その他 （　　）	その他の工事 □有　　■無	□　手作業 □　手作業・機械作業の併用

第２節　環境配慮、安全対策

第１条　景観、生活環境への配慮

１．通常時において濁水・土砂が流出しないよう対処すること。洪水時に流出した土砂は監督員の指示により清掃すること。

２．周辺住民へ随時説明会を開催するため、受注者は出席すること。

３．周辺住民とのトラブル防止のため、周辺住民から直接受注者へ要望、苦情があった場合には速やかに監督員へ報告すること。

４．工事全般において、振動・騒音・粉塵による家屋等への影響がないよう細心の注意を払うこと。

第２条　騒音対策工

１．本工事は特定建設作業を行う工事であるため、騒音規制法で定める規制値以下の作業音に抑制する必要があることは当然であるが、家屋が近接していることから低騒音型機械の使用に努めるなど、騒音の発生抑制に配慮しなければならない。特に構造物の取り壊し時は遮音シート等の設置に努めること。

第３条　工事現場内安全管理

１．本工事の施工に際し、現場に即した安全・訓練等について、工事着手後定期的に作業員全員の参加により実施するものとする。

２．休日や年末年始等の現場作業を行わない日においても、一日一回以上の見回りを行い、日誌に記録すること。

３．侵入を防止する高さ１．１ｍ以上の仮囲いを設け、看板を設置し危険箇所であることを明示すること。

第４条　交通安全対策

１．早朝に資材搬入業者の車両が公道上で待機することが絶対に無いよう調整を行うこと。

２．児童生徒通学時等の事故回避のため、午前９時までは付近公道における運搬作業を極力避けること。学校の休日であっても同様とする。

３．一般交通の安全確保のため、過積載の車両により搬入された資材を受け取ってはならない。建設廃棄物等の搬出時の運搬も同様である。

４．県道、市道、農道、生活道路を利用する場合、受注者の責任において事前に関係者の了解を得、交通安全に努め、道路の清掃・散水・維持補修をすること。また、住宅近辺では徐行すること。

第５条　工事看板の設置

着工に先立ち、付近住民及び一般通行者に本工事に対する理解と協力を求め、更に工事の安全を図るため、工事現場あるいはその付近の見やすい場所に工事標示板を設置しなければならない。

第３節　県内産品の使用促進

第１条　建設資材、物品等の調達における県内産品の使用

本工事に使用する建設資材については、県内産品の優先使用に努めることとする。特に主要資材（別紙「主要資材リスト」）の調達にあたっては、原則として県内産品を使用することとする。

ただし、主要資材について県内産品の調達が困難な場合は、県内に本店や営業所等を有する取扱業者から調達を図るものとし、それでもなお止むを得ない理由でこれにより難い場合は、使用する資材について監督員に「県内産品未使用理由書」を提出し、承諾を得るものとする。

第２条　県内産品の定義

ここでいう県内産品とは、県内で産出、生産、加工又は製造（県内工場）された建設資材を指す。

第４節　その他

第１条　工事カルテ

１．工事カルテは契約の都度(当初及び変更契約の都度)に作成し、監督員に提出のうえ承諾を受けるものとし、その費用は受注者の負担とする。

２．本工事完成時には監督員に提出のうえ、承諾を受けた工事カルテを(一般財団法人)日本建設情報総合センターに登録するとともに、登録結果を監督員に報告するものとする。

３．工事カルテの提出期限は、下記のとおりとする。

（１）受注時登録データの提出期限は、契約締結後 10 日以内とする。

（２）完成時登録データの提出期限は、工事完成後 10 日以内とする。

（３）施工中に受注時登録データの内容に変更があった場合は、変更があった日から７日以内に変更データを提出しなければならない。

第２条　施行体制台帳

１．請負者は、下請契約の有無に関わらず、建設業法第２４条の７に基づいて施工体制台帳及び施工体系図を作成し、工事現場に備えるとともに、公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律第１３条に基づいて監督員に提出するものとする。このとき施工体制台帳は様式－１及び様式－２、施工体系図は様式－３を参考として作成するものとする。また、請負者は、様式－４を参考に工事担当技術者の施工体系図を作成して、監督員に提出するものとする。工事担当技術者の施工体系図には、元請負業者の監理技術者及び専門技術者並びに下請負業者の主任技術者の顔写真、氏名、生年月日、所属会社名等を記載するものとする。

２．請負者は、建設業法施行規則第１４条の２第２項第１号に基づく添付書類を施工体制台帳とともに、監督員に提出するものとする。

第３条　交通誘導員

１．本工事では交通誘導員の配置を見込んでいない。周辺住民の要望等があり、危険と判断された場合は監督員と協議を行い、必要に応じ配置を追加するものとする。配置する交通誘導員は、原則として交通誘導警備検定合格者（１級又は２級）を配置することとする。

ただし、交通誘導警備検定合格者を配置できない場合は、交通誘導に関し専門的な知識及び技能を有する警備員を配置することとする。

資　　格	資　格　要　件
１・２級交通誘導警備検定合格者	公安委員会が学科及び実技試験を行って、交通誘導警備に関して専門的な知識及び技能を有すると認めた者。
交通誘導に関し専門的な知識及び技能を有する警備員	・警備業法における警備員指導教育責任資格者証の交付を受けている者。 ・警備業法における指定講習を修了した者。 ・警備業法施工規則における基本教育及び業務別教育 （警備業法第二条第一項第二号の警備業務）を既に受けている者で、交通誘導に関する警備業務に従事した期間(実務経験)が１年以上である者。

２.請負者は、交通誘導員として交通誘導警備検定合格者を配置した場合、交通誘導警備検定合格証（写し）を監督員に提出するものとする。

請負者は、交通誘導員として交通誘導に関し専門的な知識及び技能を有する警備員を配置した場合、交通誘導に関し専門的な知識及び技能を有すると確認できる次の資料の何れかを監督員に提出するものとする。

・警備員指導教育責任者資格者証（写し）
・指定講習修了証明書（写し）
・警備業法施工規則 第二十六条第二項に定める基本教育、及び同条第２項、第３項に定める業務別教育（警備業法第二条第一項第二号の警備業務）を受講したことを証明する警備員名簿及び教育実施状況等の写し、及び交通誘導に関する警備業務に従事した期間（実務経験）が１年以上であることを証明する書類。

第４条　施工内容の変更

１．本業務は、関係機関と調整の上で護岸工や擁壁工等の工事の追加が発生する場合がある。その際は、協議に応じ、真摯に対応すること。

第５条　定めなき事項

１．この特別仕様書に定めない事項又は本工事の施工に当たり疑義が生じた場合は、必要に応じて監督員と協議するものとする。

第６条　週休２日制度

１．本工事は、原則週休２日（土曜・日曜）を確実に取得できるよう工事を実施する「週休２日制度」の対象工事であり、その旨を工事看板に明記すること。（受注者は契約後、週休２日を反映した施工計画書を提出する。）建設業へ入職しやすい環境整備のため、週休２日が確実に確保できるよう受発注者間で工程を調整し、施工計画を作成するなどの取り組みを行う。

２．悪天候や作業工程等の理由により、平日が現場閉所となり、土曜や日曜に作業を行った場合は、１ヶ月あたり２日を上限として、土曜・日曜の現場閉所日を平日に振り替えることを可能とする。なお、完全週休２日（同一週内での週休２日）または月単位の週休２日が認められる状態になるよう振り替えること。

３．毎月、監督員に翌月の現場閉所日を記載した「休日取得計画書（別紙１）」を提出すること。

４．現場閉所日の振替を行う場合、工事打合簿により、その理由と振り替える日を事前に監督員に連絡すること。

５．毎月、監督員に前月の現場閉所の状況を「休日取得実績報告書（別紙２）」により報告すること。

６．現場稼働中の工期〔工事着手前（現場測量等）、年末年始休暇６日間、夏季休暇３日間、一時中止期間、工場製作期間、工事完了後等の期間を除く〕において現場閉所の週休２日(完全週休２日（土日）または月単位の週休２日)の達成状況（平日振替日※を含む）の確認のため、受注者は「工事履行報告書（別紙３－１）」を提出すること。

７．労務費等の補正は行わない。

８．土曜・日曜の休日に受注者の作業員や下請け企業が他の現場で作業に従事することを制限しない。同様に現場代理人等（監理技術者、主任技術者、監理技術者補佐）が休日に書類作成等の内勤業務や他の現場に従事することを制限しない。但し、専任の者である場合、他の現場に従事しないこと。

９．　受注者は、週休２日制度から週休２日制度(交替制)へ変更する場合、工事着手までに発注者と協議の上、変更することができる。ただし、工事着手後の変更は認めない。

10. 下請企業に対し、週休２日の取組みにあたり、必要な事項について協力を求めること。

11. 受注者は、週休２日制度対象工事であることを、工事看板に明記すること。（別紙５－１）

≪週休２日制度の達成状況≫

現場閉所日数（平日振替日を含む）を現場稼働中の土曜・日曜の全日数で除し、少数点以下を四捨五入する。

＜参考＞

施工計画書添付資料一覧

- 施工体制台帳
- 特殊作業（溶接等）の資格証の写し
- 使用重機の規格仕様書写し
- 運搬車両の車検証の写し
- 土砂等運搬経路図
- 安全管理看板、交通整理員等の配置計画図
- 特定建設作業実施届出書の写し
- 道路占用工事等の警察許可写し
- 出来型管理計画は測定箇所図を添付（ため池の場合、盛土管理予定位置図）
- 産業廃棄物等処理計画書
- 再生資源利用計画書
- 施工計画書とは別途提出　工事カルテ受領書の写し（着手、変更）
- その他監督員の指示したもの

完了時

・工事検査時提出資料一覧

- 工事写真
- 出来型成果表（管割図、展開図、構造図、測量図、取壊し断面図なども含む）
  （周回道路については、盛土量を算出したもの）
- 工程管理（月ごとの進捗を報告したもの）
- 品質管理（盛土管理含む。日々の含水比管理もグラフにすること）
- 材料検収表（２次製品の材料検査表、土等の搬入時の積載量検収書類等含む。コンクリート納入時間の記入を確認。）
- 材料納入伝票（集計表、設計量との比較表添付）

・ 産業廃棄物等処理完了報告書（マニュフェスト票添付）
・ 再生資源利用実施書
・ 完成届、引渡書、請求書
・ 完了時工事カルテ受領書の写し
・ 試験結果表（六価クロム他、指示したもの）
・ 作業日報、安全管理の実績報告をまとめておく。（提出の義務無し。工事検査時持参しておくこと）
・ その他監督員が指示したもの

別紙1

休日取得計画書

(あて先)総括監督員

工事名:＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

受注者:＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

月　　提出日　令和　年　月　日

日	曜日	休日取得計画	備　考
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
合　計			

(注)

1 下記の期間は週休2日の対象期間から除く(備考欄に「対象期間外」と記載する)

年末年始休暇期間、夏季休暇期間、一時中止期間、工場製作期間

2 月末までに翌月の計画書を総括監督員に提出する

別紙2

休日取得実績報告書

(あて先)総括監督員

工事名:

受注者:

月

提出日　令和　年　月　日

日	曜日	休日取得計画	休日取得実績	備　考
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
31				
合　計				

(注)

1 休日取得計画欄には前回提出した休日取得計画日に「○」を記入する

2 休日取得実績欄には実際に休日を取得した日に「○」を記入する

3 下記の期間は週休2日の対象期間から除く（備考欄に「対象期間外」と記載する）

年末年始休暇期間、夏季休暇期間、一時中止期間、工場製作期間

4 休日を振替えた場合は、備考欄に「○日の振替日」と記載する

別紙3－1

工 事 履 行 報 告 書

工事名								
工 期	～							
日 付	（　　月分）							
月 別	予定工程 ％ （ ）内は工程変更後	実施工程 ％	休日数※1				完全週休2日達成状況※4 達 成（○） 未達成（×）	備考
			対象数 （A）	土日休日数 （B）	平日休日数 （C）※2	休日計 （D）※3 ＝B+C		
計			ΣA			ΣD		
（休日取得率）			ΣD/ΣA＝○○％					
（記事欄）								

※1 休日数は、現場稼働中〔工事着手前（現場測量等）、一時中止期間、工場製作期間、工事完了後等の期間を除く〕の原則土曜日曜の日数とする。悪天候や作業工程等の理由により、平日が現場閉所となり、土曜や日曜に作業を行った場合は、１ヶ月あたり２日を上限として、土曜・日曜の現場閉所日を平日に振り替えることを可能とする。なお、完全週休2日（同一週内での週休2日）、または月単位の週休2日が認められる状態になるように振り替えること。週の定義は月曜日から日曜日までとする。

※2 （C）は土曜・日曜の振り替え日数を計上することとし、上限は２日とする。

※3 （D）の日数は、（D）≦（A）となる。

総 括 監督員		主 任 監督員	現 場 技術員

現 場 代理人	主 任 （監理） 技術者

別紙5－1

＜週休2日制度対象工事であることを明記する工事看板例＞



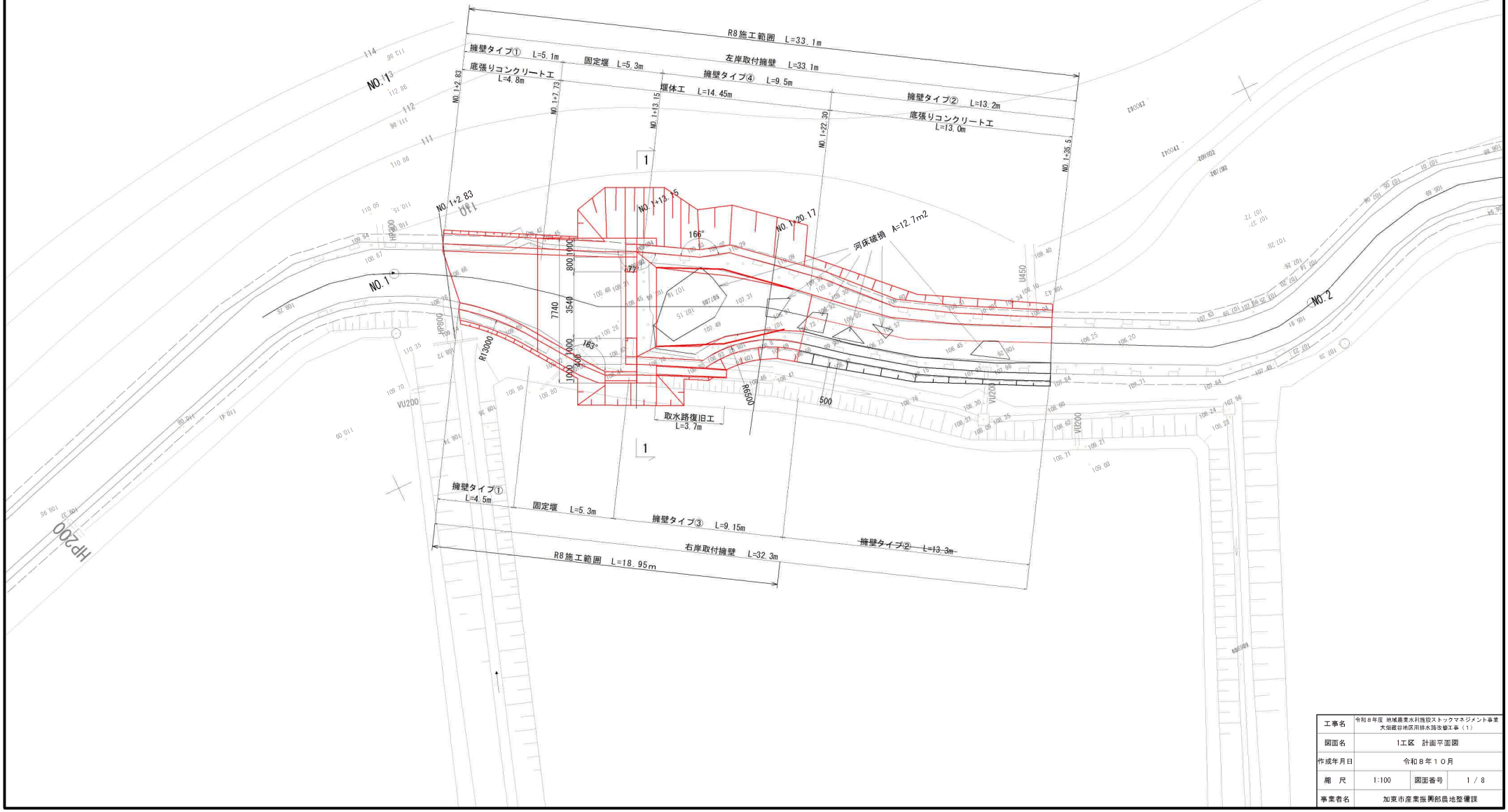

加東市
大畑
大畑
下池
中ノ池
主要地方道神戸加東線
令和８年度　地域農業水利施設ストックマネジメント事業　大畑蔵谷地区用排水路改修工事（１）　位置図

1/5000

0　150m

1工区　計画平面図

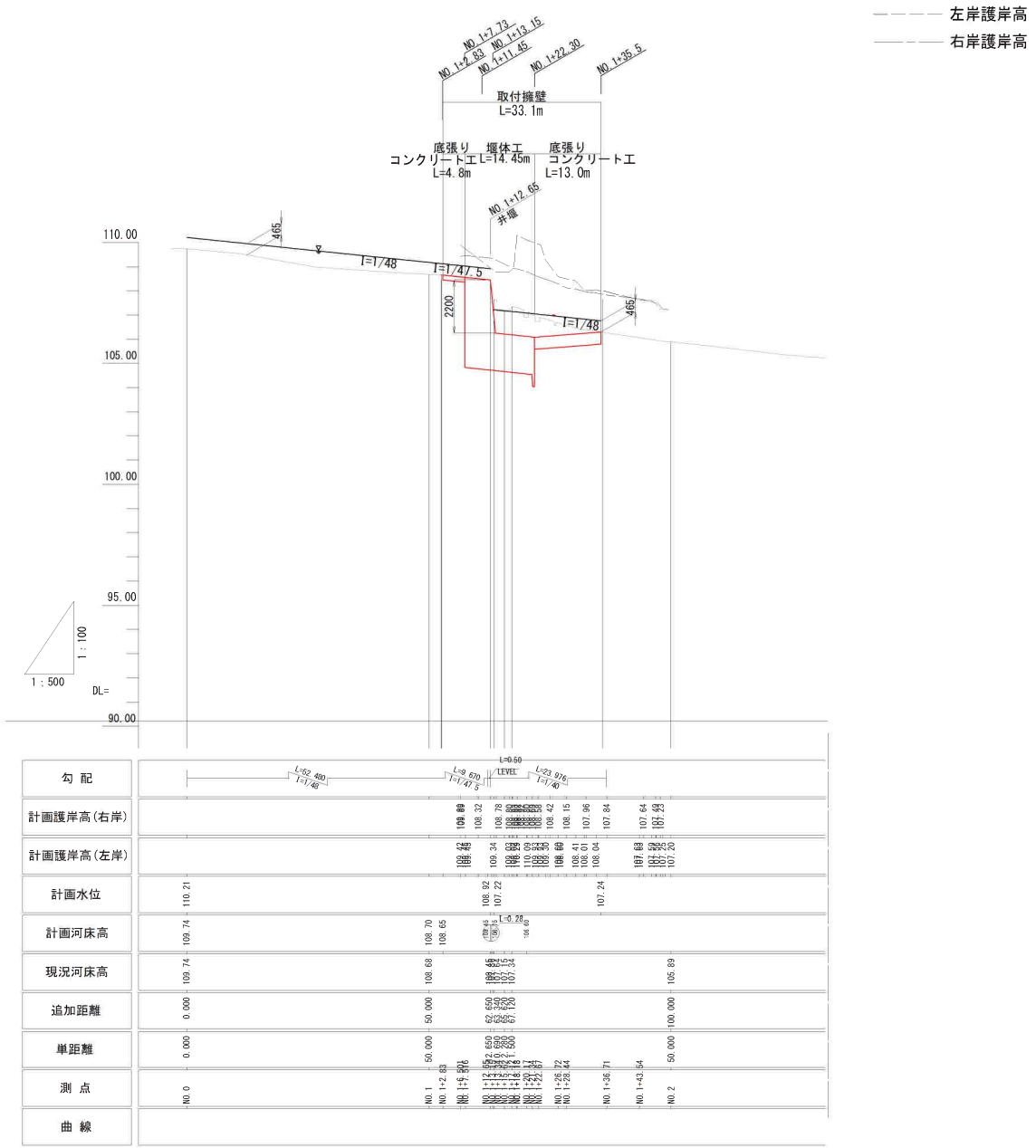
S=1:100



工事名	令和８年度 地域農業水利施設ストックマネジメント事業 大畑蔵谷地区用排水路改修工事（１）		
図面名	1工区　計画平面図		
作成年月日	令和８年１０月		
縮　尺	1:100	図面番号	1 / 8
事業者名	加東市産業振興部農地整備課		

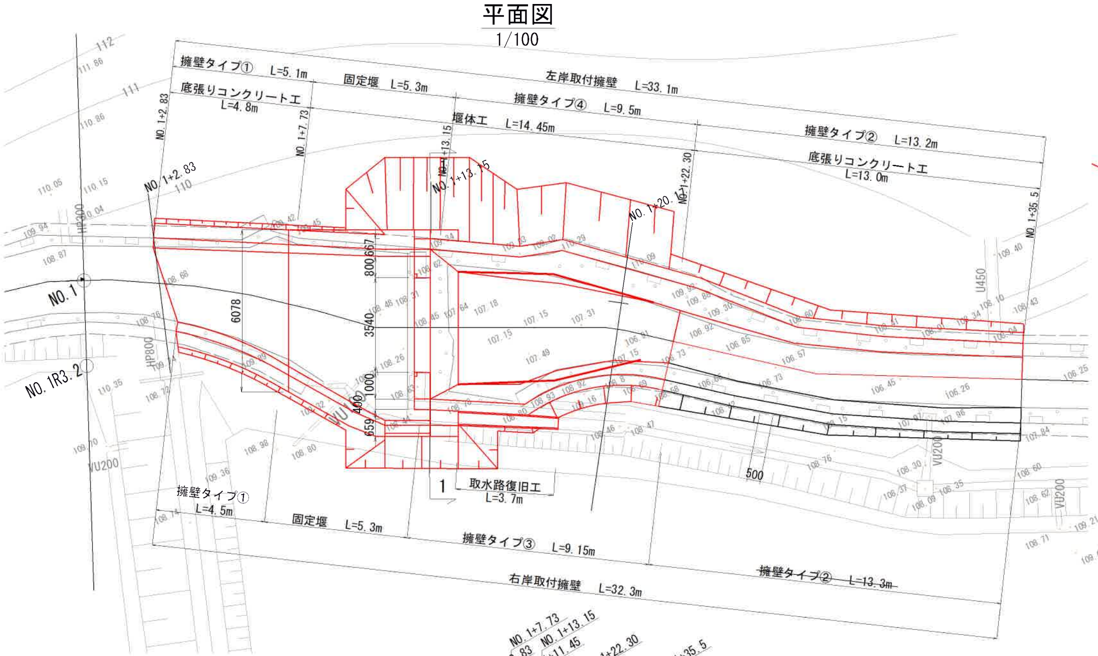
1工区　計画縦断図

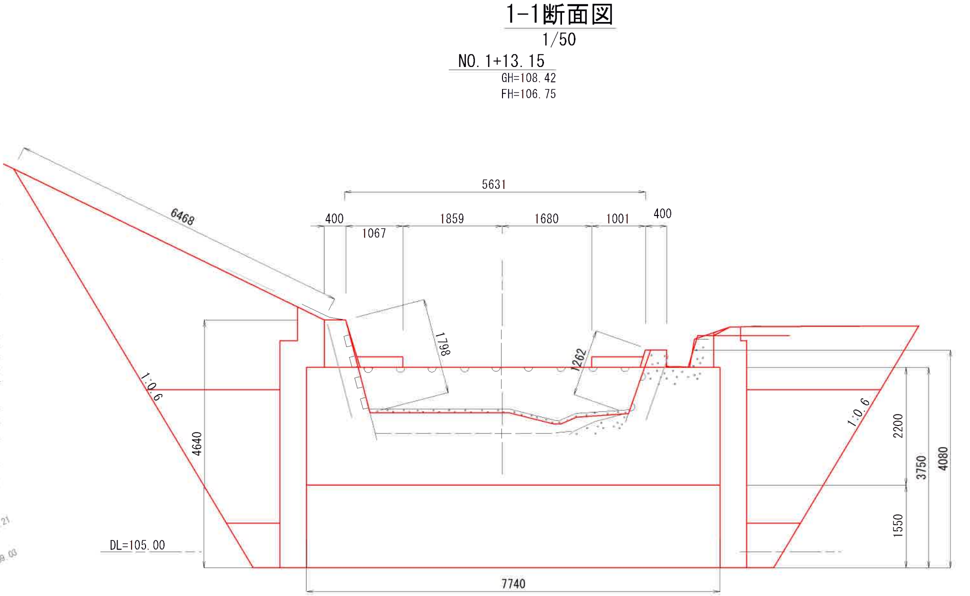
V=1:500　H=1:100

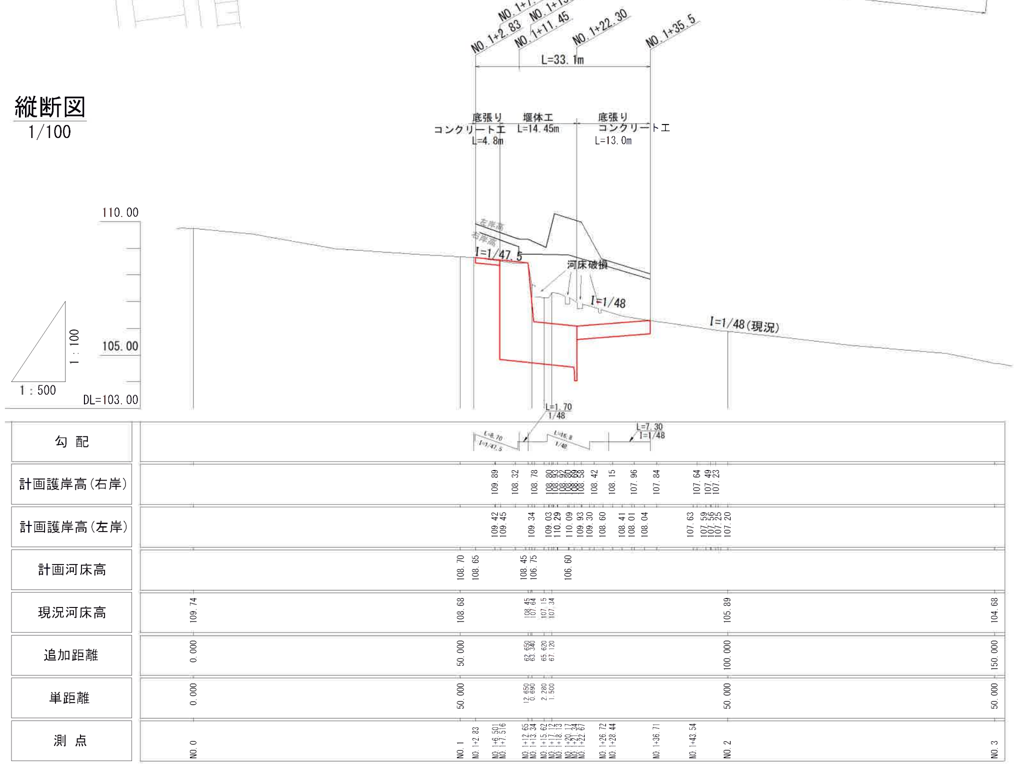


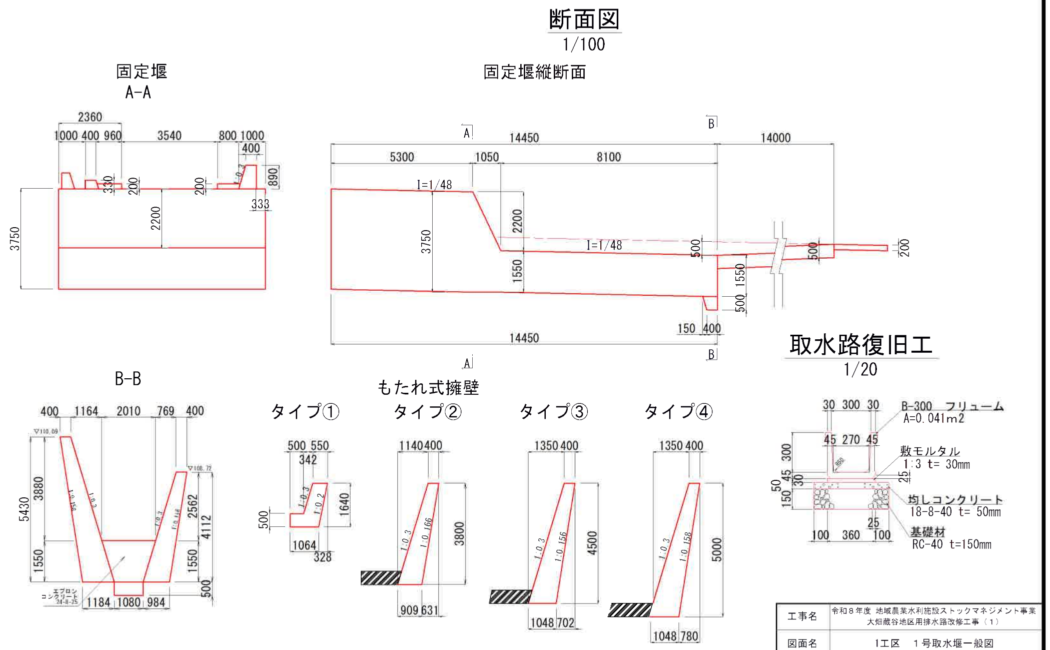
工事名	令和８年度 地域農業水利施設ストックマネジメント事業 大垣藏谷地区用排水路改修工事（１）
図面名	1工区　計画縦断図
作成年月日	令和８年１０月
縮　尺	V=1:500 H=1:100
図面番号	2 / 8
事業者名	加東市産業振興部農地整備課

1工区　1号取水堰一般図







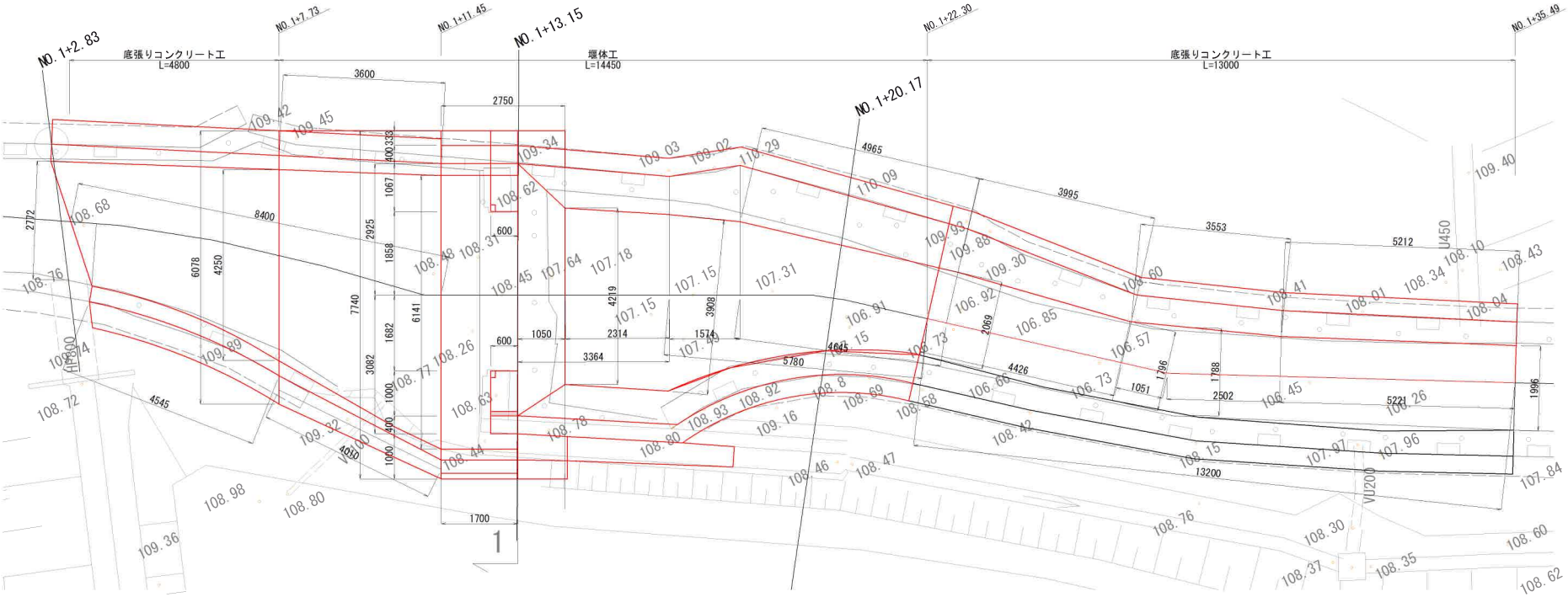


工事名	令和８年度 地域農業水利施設ストックマネジメント事業 大畑蔵谷地区用排水路改修工事（１）		
図面名	1工区　１号取水堰一般図		
作成年月日	令和８年１０月		
縮　尺	図示	図面番号	3 / 8
事業者名	加東市産業振興部農地整備課		

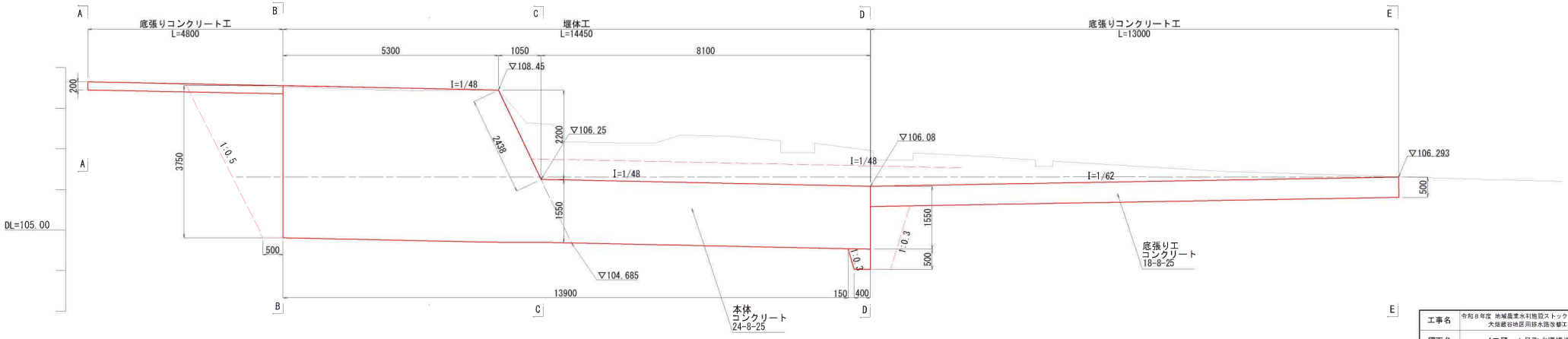
1号取水堰構造図(1)

A1:1/50

平面図 S=1:50



側面図 S=1:50

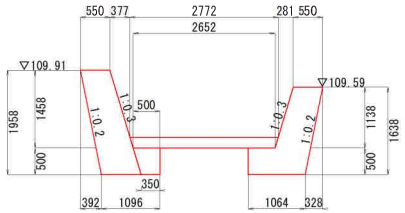


工事名	令和８年度 地域農業水利施設ストックマネジメント事業 大畑蔵谷地区用排水路改修工事（１）		
図面名	1工区　１号取水堰構造図(1)		
作成年月日	令和８年１０月		
縮　尺	図示	図面番号	4 / 8
事業者名	加東市産業振興部農地整備課		

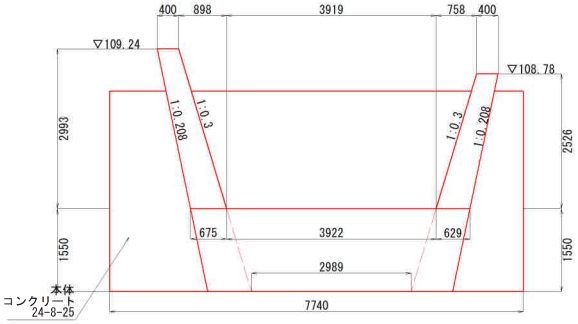
1号取水堰構造図(2)

A1:1/50

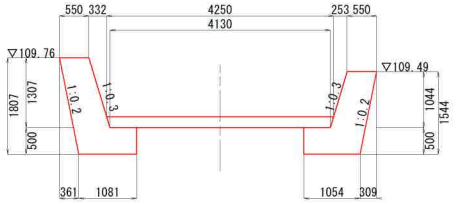
A-A断面図



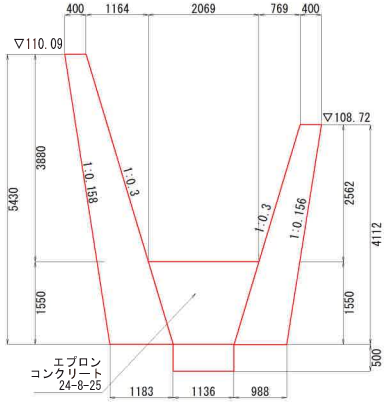
C-C 断面図（下流側）



B-B 断面図（上流側）

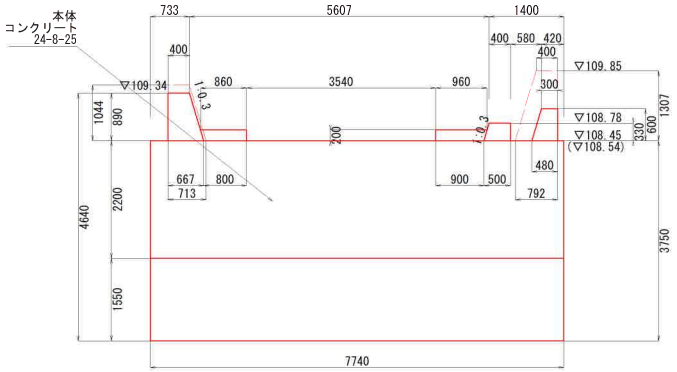


D-D 断面図

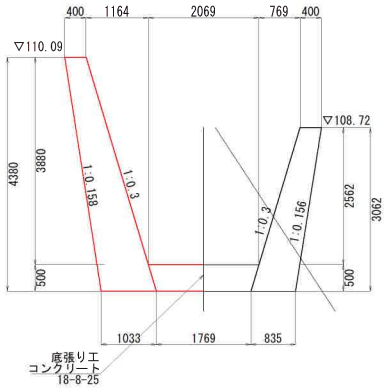


※D-D 断面図（下流面）とE-E 断面図は左岸のみ施工箇所

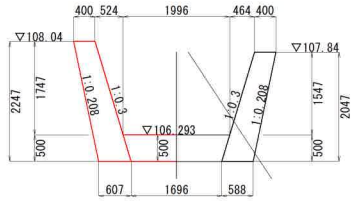
C-C 断面図（上流側）



D-D 断面図（下流面）



E-E 断面図



工事名	令和８年度 地域農業水利施設ストックマネジメント事業 大畑蔵谷地区用排水路改修工事（１）		
図面名	1工区　１号取水堰構造図(2)		
作成年月日	令和８年１０月		
縮　尺	図示	図面番号	5 / 8
事業者名	加東市産業振興部農地整備課		

1工区　1号取水堰横断図

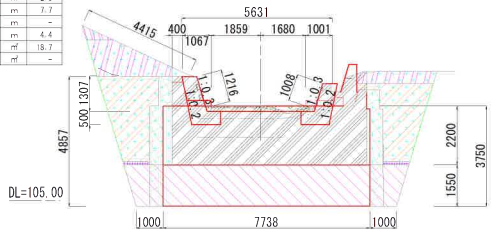
A1:1/100

NO.1+7.73(下流側)

凡例	項目		単位	数量
	表土はぎ	t=150	㎡	-
	堤削	片切	㎡	18.3
		オープン	㎡	-
	盛土	構造物周辺	㎡	-
		① B≧4.0m	㎡	-
		② 2.5m≦B<4.0m	㎡	-
		③ 1.0m≦B<2.5m	㎡	4.2
		④ B<1.0m	㎡	0.27
	床堀		㎡	15.8
	埋戻し	構造物周辺	㎡	4.6
		A W≧4.0m	㎡	-
		B 2.5m≦W<4.0m	㎡	-
		C 1.0m≦W<2.5m	㎡	9.7
		D W<1.0m	㎡	2.5
	基面整正		m	7.7
	法面整形工	切土法面	m	-
		盛土法面	m	4.4
	既設構造物撤去(ブロック積)		㎡	18.7
	耕鮮整形工		㎡	-

NO.1+7.73(下流側)

GH=108.42
FH=106.75

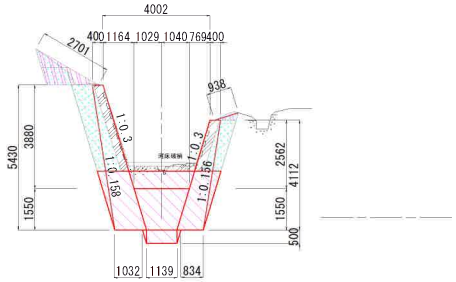


NO.1+22.30(上流側)

凡例	項目		単位	数量
	表土はぎ	t=150	㎡	-
	堤削	片切	㎡	5.1
		オープン	㎡	-
	盛土	構造物周辺	㎡	-
		① B≧4.0m	㎡	-
		② 2.5m≦B<4.0m	㎡	-
		③ 1.0m≦B<2.5m	㎡	0.95
		④ B<1.0m	㎡	0.47
	床堀		㎡	9.3
	埋戻し	構造物周辺	㎡	3.3
		A W≧4.0m	㎡	-
		B 2.5m≦W<4.0m	㎡	-
		C 1.0m≦W<2.5m	㎡	-
		D W<1.0m	㎡	-
	基面整正		m	3.0
	法面整形工	切土法面	m	-
		盛土法面	m	3.6
	既設構造物撤去(ブロック積)		㎡	2.4
	耕鮮整形工		㎡	-

NO.1+22.30(上流側)

GH=108.42
FH=106.75

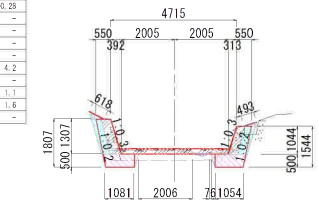


NO.1+7.73(上流側)

凡例	項目		単位	数量
	表土はぎ	t=150	㎡	-
	堤削	片切	㎡	0.98
		オープン	㎡	-
	盛土	構造物周辺	㎡	-
		① B≧4.0m	㎡	-
		② 2.5m≦B<4.0m	㎡	-
		③ 1.0m≦B<2.5m	㎡	-
		④ B<1.0m	㎡	0.09
	床堀		㎡	1.2
	埋戻し	構造物周辺	㎡	0.28
		A W≧4.0m	㎡	-
		B 2.5m≦W<4.0m	㎡	-
		C 1.0m≦W<2.5m	㎡	-
		D W<1.0m	㎡	-
	基面整正		m	4.2
	法面整形工	切土法面	m	-
		盛土法面	m	1.1
	既設構造物撤去(ブロック積)		㎡	1.6
	耕鮮整形工		㎡	-

NO.1+7.73(上流側)

GH=108.45
FH=106.75

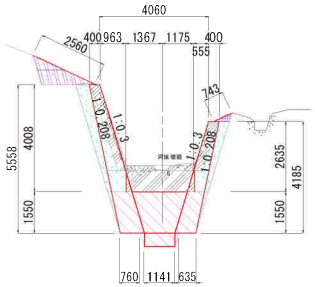


NO.1+20.107

凡例	項目		単位	数量
	表土はぎ	t=150	㎡	-
	堤削	片切	㎡	3.9
		オープン	㎡	-
	盛土	構造物周辺	㎡	-
		① B≧4.0m	㎡	-
		② 2.5m≦B<4.0m	㎡	-
		③ 1.0m≦B<2.5m	㎡	0.83
		④ B<1.0m	㎡	0.36
	床堀		㎡	5.8
	埋戻し	構造物周辺	㎡	2.2
		A W≧4.0m	㎡	-
		B 2.5m≦W<4.0m	㎡	-
		C 1.0m≦W<2.5m	㎡	-
		D W<1.0m	㎡	-
	基面整正		m	2.5
	法面整形工	切土法面	m	-
		盛土法面	m	3.3
	既設構造物撤去(ブロック積)		㎡	3.9
	耕鮮整形工		㎡	-

NO.1+20.107

GH=106.11
FH=106.60

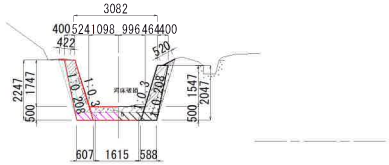


NO.1+35.49(上流側)

凡例	項目		単位	数量
	表土はぎ	t=150	㎡	-
	堤削	片切	㎡	0.5
		オープン	㎡	-
	盛土	構造物周辺	㎡	-
		① B≧4.0m	㎡	-
		② 2.5m≦B<4.0m	㎡	-
		③ 1.0m≦B<2.5m	㎡	-
		④ B<1.0m	㎡	0.1
	床堀		㎡	0.5
	埋戻し	構造物周辺	㎡	0.2
		A W≧4.0m	㎡	-
		B 2.5m≦W<4.0m	㎡	-
		C 1.0m≦W<2.5m	㎡	-
		D W<1.0m	㎡	-
	基面整正		m	1.6
	法面整形工	切土法面	m	-
		盛土法面	m	0.4
	既設構造物撤去(ブロック積)		㎡	0.9
	耕鮮整形工		㎡	-

NO.1+35.50(上流側)

GH=106.11
FH=106.60

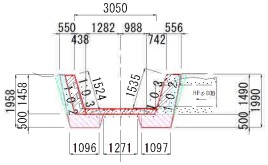


NO.1+2.83

凡例	項目		単位	数量
	表土はぎ	t=150	㎡	-
	堤削	片切	㎡	1.1
		オープン	㎡	-
	盛土	構造物周辺	㎡	-
		① B≧4.0m	㎡	-
		② 2.5m≦B<4.0m	㎡	-
		③ 1.0m≦B<2.5m	㎡	-
		④ B<1.0m	㎡	-
	床堀		㎡	1.2
	埋戻し	構造物周辺	㎡	0.39
		A W≧4.0m	㎡	-
		B 2.5m≦W<4.0m	㎡	-
		C 1.0m≦W<2.5m	㎡	-
		D W<1.0m	㎡	-
	基面整正		m	3.5
	法面整形工	切土法面	m	-
		盛土法面	m	-
	既設構造物撤去(ブロック積)		㎡	1.7
	耕鮮整形工		㎡	-

NO.1+2.83

GH=108.65
FH=108.65

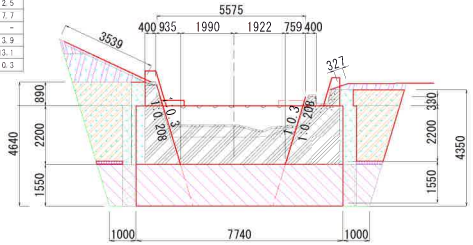


NO.1+13.15

凡例	項目		単位	数量
	表土はぎ	t=150	㎡	-
	堤削	片切	㎡	15.5
		オープン	㎡	-
	盛土	構造物周辺	㎡	-
		① B≧4.0m	㎡	-
		② 2.5m≦B<4.0m	㎡	-
		③ 1.0m≦B<2.5m	㎡	2.7
		④ B<1.0m	㎡	0.27
	床堀		㎡	15.8
	埋戻し	構造物周辺	㎡	4.5
		A W≧4.0m	㎡	-
		B 2.5m≦W<4.0m	㎡	-
		C 1.0m≦W<2.5m	㎡	8.4
		D W<1.0m	㎡	2.5
	基面整正		m	7.7
	法面整形工	切土法面	m	-
		盛土法面	m	3.9
	既設構造物撤去(ブロック積)		㎡	13.1
	耕鮮整形工		㎡	0.3

NO.1+13.15

GH=108.42
FH=106.75



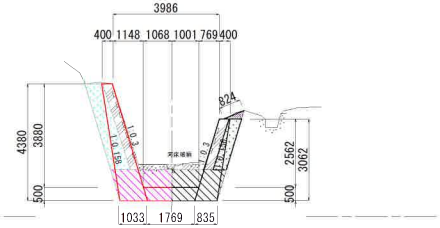
DL=100.00

NO.1+22.30(下流側)

凡例	項目		単位	数量
	表土はぎ	t=150	㎡	-
	堤削	片切	㎡	2.3
		オープン	㎡	-
	盛土	構造物周辺	㎡	-
		① B≧4.0m	㎡	-
		② 2.5m≦B<4.0m	㎡	-
		③ 1.0m≦B<2.5m	㎡	-
		④ B<1.0m	㎡	-
	床堀		㎡	2.5
	埋戻し	構造物周辺	㎡	1.4
		A W≧4.0m	㎡	-
		B 2.5m≦W<4.0m	㎡	-
		C 1.0m≦W<2.5m	㎡	-
		D W<1.0m	㎡	-
	基面整正		m	2.0
	法面整形工	切土法面	m	-
		盛土法面	m	-
	既設構造物撤去(ブロック積)		㎡	1.4
	耕鮮整形工		㎡	-

NO.1+22.30(下流側)

GH=108.42
FH=106.75

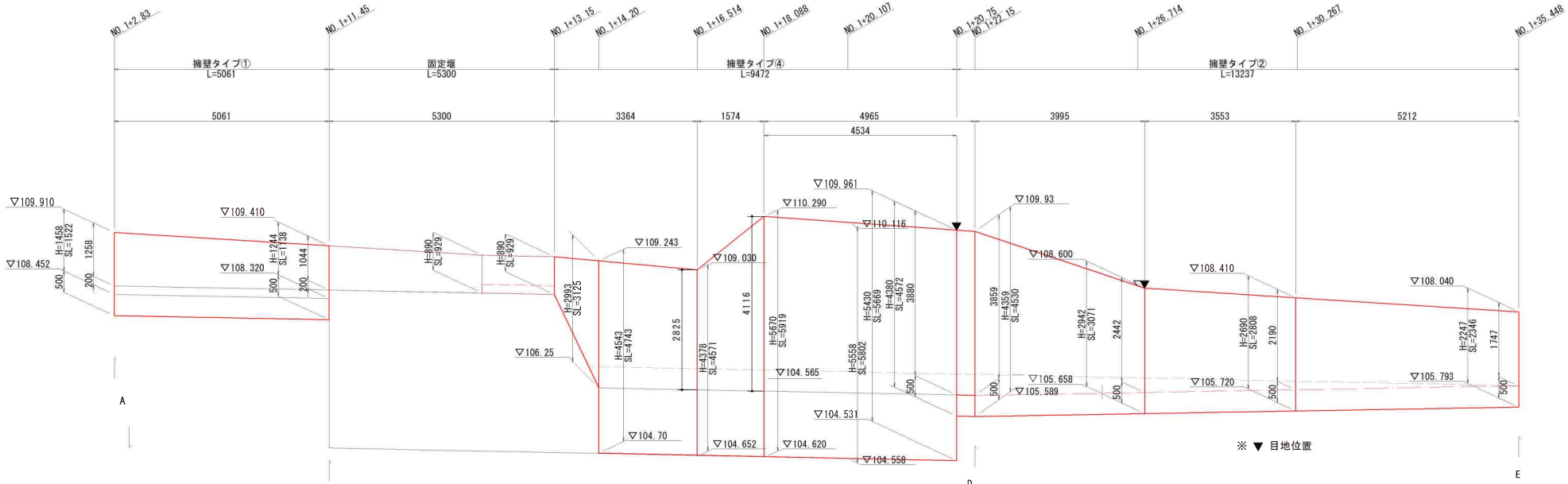


工事名	令和８年度 地域農業水利施設ストックマネジメント事業 大柿蔵谷地区用排水路改修工事（１）		
図面名	1工区　1号取水堰横断図		
作成年月日	令和８年１０月		
縮尺	1:100	図面番号	6 / 8
事業者名	加東市産業振興部農地整備課		

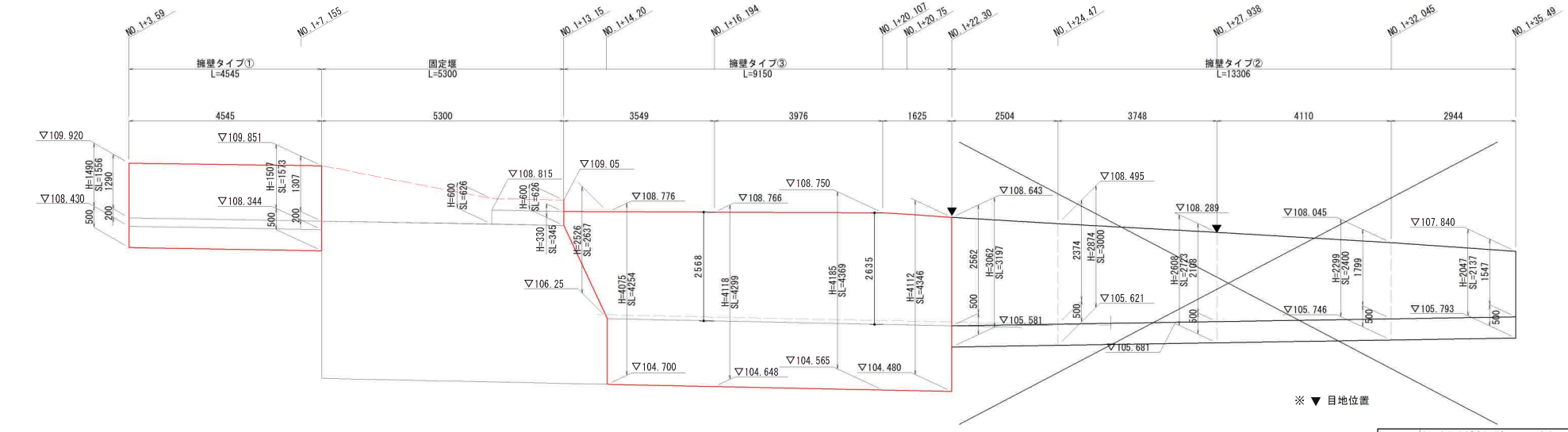
1工区 取付擁壁展開図

S=1:50

左岸展開図 S=1:50



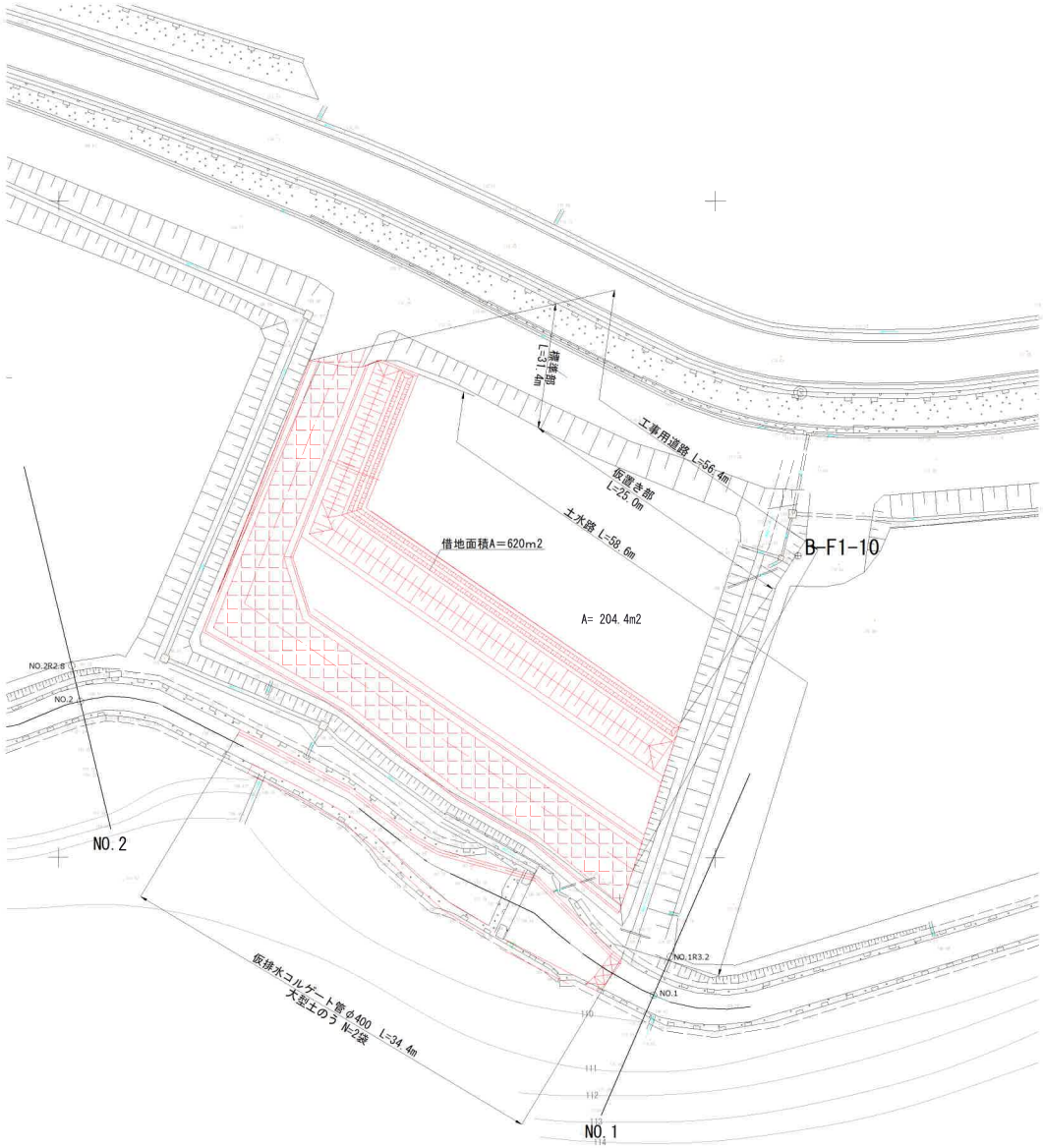
右岸展開図 S=1:50



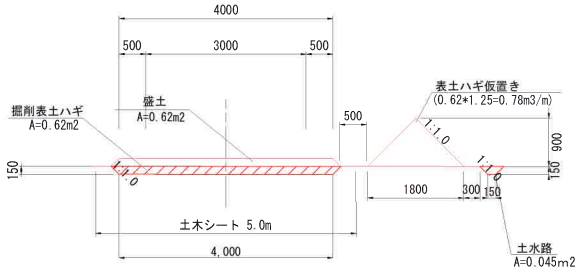
工事名	令和８年度 地域農業水利施設ストックマネジメント事業 大垣藏谷地区用排水路改修工事（１）		
図面名	1工区 取付擁壁展開図		
作成年月日	令和８年１０月		
縮　尺	1:50	図面番号	7 / 8
事業者名	加東市産業振興部農地整備課		

1工区　仮設計画図

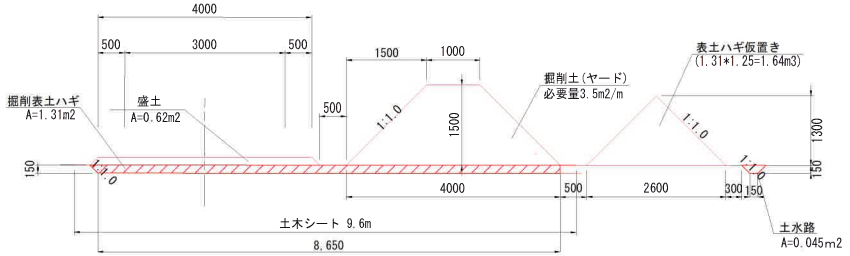
平面図　S=1/200



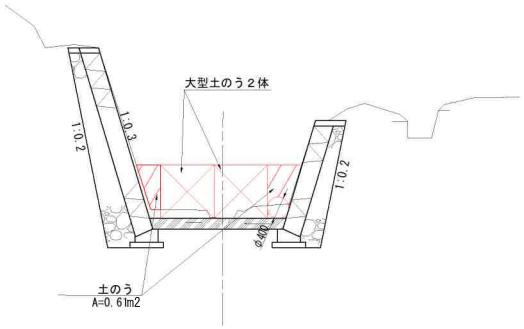
標準部　S=1/50



仮置き部　S=1/50



締切り工断面図　S=1/50



工事名	令和８年度 地域農業水利施設ストックマネジメント事業 大垣畷谷地区用排水路改修工事（１）		
図面名	1工区　仮設計画図		
作成年月日	令和８年１０月		
縮　尺	図示	図面番号	8 / 8
事業者名	加東市産業振興部農地整備課		